

令和5年度 国語科 評価規準(1 学年) 江戸川区立平井西小学校				
学期	時数	単元名	評価の観点	Bの評価規準
1	3	なかよしの き	□挿絵を見ながら気づいたことを話し、話を想像しながら物語を楽しむとともに、国語学習への関心や意欲をもつ。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)イ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声に注意して話している。(〔知識および技能〕(1)イ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ) 【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって内容や感想を話し合おうとしている。
1	2 (話す聞く2)	たのしい いちにち	◇学校生活のさまざまな場面の挿絵をもとに、挨拶の言葉を考え、場面に合わせた挨拶ができるようにする。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒思判表A(1)ア ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。⇒◎思判表A(1)ウ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。⇒思判表A(2)ア ☆道徳：B礼儀 気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接すること。	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(〔知識及び技能〕(1)イ) ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ) 【態度】積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって挨拶をしようとしている。
1	2 (話す聞く2)	わたしの なまえ	◇自己紹介の場面の挿絵をもとに、話し方や聞き方について話し合い、言語生活を広げる。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。⇒◎思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。⇒思判表A(1)エ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。⇒思判表A(2)ア ☆道徳・特別活動：自己紹介をし、みんなに自分のことを知ってもらう。	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(〔知識及び技能〕(1)イ) ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ) 【態度】積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって名前を紹介し合おうとしている。
1	2	おはなし たくさん ききたいな	△さまざまな本の読み聞かせをとおして、読書への関心を高める。 △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。⇒◎知技(3)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ	◎【知識・技能】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(〔知識及び技能〕(3)エ) 【態度】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって感想を発表しようとしている。
1	1 (話す聞く1)	こえの おおきさ どれくらい	◇挿絵をもとに、場面に応じた話し声の大きさを意識する。 ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。⇒◎思判表A(1)ウ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。⇒思判表A(2)ア	◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ) 【態度】積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって話そうとしている。
	3	がいて みよう	△正しい鉛筆の持ち方、正しい姿勢に気をつけて線をなぞったり文字を書いたりする。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ △姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くこと。⇒知技(3)ウ(7)	◎【知識・技能】平仮名を読み、書いている。(〔知識及び技能〕(1)ウ) 【態度】進んで平仮名を読んだり書いたりし、学習課題にそって言葉を書こうとしている。
1	1 (話す聞く1)	こえを あわせて あいうえお	◇「こえを あわせて あいうえお」を、姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意してはっきりした発音で読む。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒知技(1)イ △語のまともりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。⇒◎思判表A(1)ウ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。⇒思判表A(2)ア	【知識・技能】語のまともりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク) ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ) 【態度】積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって音読しようとしている。

1	1	あいいうお	△母音や簡単な平仮名の読み方、書き方を理解する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)ウ	◎【知識・技能】音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(〔知識及び技能〕(1)イ) 【態度】積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって声に出して読もうとしている。
1	3 (話す聞く3)	みつけて はなそう、たのしく きこう	◇挿絵から見つけた話題にそって話し、相手の話題に対して、簡単なことを尋ねたり、応答したりする。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。 ⇒◎思判表A(1)オ ◇尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。 ⇒思判表A(2)イ	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア) ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ) 【態度】積極的に互いの話に関心をもち、学習の見通しをもって尋ねたり応答したりしようとしている。
	2 (書く1)	かき、かぎ	△清音と濁音、半濁音の違いを理解して、正しく読んだり書いたりし、主語と述語の関係や文の終わりに句点がつくことを理解し、正しく文を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ) 【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) 【態度】積極的に濁音・半濁音の表記、句点の打ち方を理解し、学習課題に沿って簡単な文を書くようとしている。
	2	ことばを あつめよう	△言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、つながる言葉を考えて読んだり、書いたりする。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ) 【態度】進んで身近なことを表す語句の量を増やし、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。
1	3	くまさんと ありさんの ごあいさつ	□登場人物の様子を考えながら、楽しく音読する。 △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 ⇒知技(1)キ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ) 【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって内容や感想を伝えようとしている。
	2 (書く1)	ねこ、ねっこ	△促音の読み方と書き方を理解し、句読点の使い方を理解する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒◎知技(1)カ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 ⇒知技(1)キ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ) ◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。(〔知識及び技能〕(1)カ) 【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) 【態度】積極的に促音の表記、読点の使い方を理解し、学習課題に沿って簡単な文を書くようとしている。
1	3	ほんを よもう	△読みたい本を探して読んだり、読んだ本について友達や先生に話したりして、読書を広げる。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 ⇒知技(3)ア △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 ⇒◎知技(3)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	◎【知識・技能】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(〔知識及び技能〕(3)エ) 【態度】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって感想を伝え合おうとしている。

	2 (書く1)	ことばを つなごう	△言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、つながる言葉を考えて読んだり、書いたりする。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） 【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） 【態度】進んで身近なことを表す語句の量を増し、学習課題に沿って読んだり書いたりしようとしている。
1	1	たのしく よもう 1 あいうえおの うた	△様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） 【態度】進んで語のまとまりや言葉の響きなどに気を付け、学習の見通しをもって音読しようとしている。
	1	ごじゅうおん	△五十音表を見て、これまでに学んだ平仮名の学習を振り返るとともに、五十音表の基本的な特徴に気づく。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記の仕方を理解して文や文章の中で使っている。また、また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】積極的に平仮名を読み、今までの学習を生かして五十音表の特徴に気づこうとしている。
1	5	けむりの きしゃ	□文章と挿絵を結びつけながら、場面の様子について人物の行動を中心に想像を広げながら読む。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)ウ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ） 【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって登場人物に手紙を書こうとしている。
	2	のばす おん	△長音の読み方と書き方を理解する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】積極的に長音の表記の仕方を理解し、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。。
1	2 (書く2)	せんせい、あのね	■話し言葉がそのまま文になることを知り、先生に話しかけるかたちの簡単な文章を書くとともに、敬体の文章に慣れるようにする。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)ウ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒◎知技(1)カ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 ⇒知技(1)キ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ☆生活科・特別活動：敬体や方言を使ったり、書いたりした文を見直しながら、相手にわかりやすいように書いて知らせる。 ☆道徳：友達が書いたもののよいところを見つける。	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア） 【態度】進んで主語と述語との関係に気付こうとし、学習の見通しをもって簡単な文章を書こうとしている。

1	4 (話す聞く4)	みんなに はなそう	◇身近なことや経験したことから話題を決め、必要なことを思い出して、順序を考えて話す。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 ⇒◎知技(1)キ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒◎思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ⇒思判表A(1)エ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活△様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク	◎【知識・技能】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使っている。(〔知識及び技能〕(1)キ) ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aア) 【態度】積極的に丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付け、今までの学習を生かして身近なことを話そうとしている。
1	1	たのしく よもう 2 がぎくげこの うた	△身近なものを観察し、気づいたことを簡単な絵や文で表し、書いたものを読み合って感想を伝え合う。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ☆生活科：観察カードを書く学習に生かすことができる。	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きを伝える働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) 【態度】進んで経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、学習の見通しをもって記録する文章を書こうとしている。
1	6	すずめの くらし	□問いの文や写真に導かれながら、すずめについて説明した文章を読む。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 ⇒知技(3)エ □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 ⇒思判表C(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ □事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。 ⇒思判表C(2)ア	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書いている。(〔知識及び技能〕(1)ウ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cア) 【態度】積極的に時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって分かったことや思ったことを紹介しようとしている。
	2	しや、しゅ、しょ	△拗音や拗長音に注意して、身のまわりから言葉を見付け、正しく読んだり書いたりする。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ) 【態度】積極的に拗音の表記の仕方を理解し、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。
1	1	たのしく よもう 3 きやきゅきよの うた	△様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク) 【態度】進んで語のまとまりや言葉の響きなどに気を付け、学習の見通しをもって音読しようとしている。

1	12 (書く12)	しらせたい ことを かこう	■身近なできごとや経験から知らせたいことを選び、簡単な文章を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表◎B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ☆生活科・特別活動：歌体や方言を使ったり、書いたりした文を見直ししながら、相手にわかりやすいように書いて知らせる。 ☆道徳：友達が書いたもののよいところを見つける。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア） 【態度】積極的に長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解し、学習の見通しをもって簡単な文章を書くとしている。
1		は、を、へ	△助詞の表記と語中の表記とを区別して理解する。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ ☆生活科：見つけたことや気づいたことを、文章に書く	◎【知識・技能】助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】積極的に助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解し、学習の見通しをもって簡単な文章を書くとしている。
1	2	としょかんへ いこう	△図書館の基本的な利用方法を知り、興味のある本を探したり、紹介し合ったりする。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 ⇒知技(3)ア △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 ⇒◎知技(3)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	◎【知識・技能】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（〔知識及び技能〕(3)エ） 【態度】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本を紹介しようとしている。
1	2	おはなしの くに	△挿絵を見ながら昔話などに興味をもち、読書をする。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 ⇒知技(3)ア △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 ⇒◎知技(3)エ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	◎【知識・技能】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（〔知識及び技能〕(3)エ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ） 【態度】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本を読もうとしている。
1	6	おおきな かぶ	□繰り返しの展開を楽しみながら、場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げて読む。 △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：友達と協力して音読したり、話し合ったりする。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ） 【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって内容や感想を伝えようとしている。

1	4 (書く4)	えにつき	■身のまわりのできごとや経験したことを、絵と文で表現する。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒思判表◎B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けれること。⇒思判表B(1)オ ■日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)イ ☆生活科・特別活動：日常生活の中から、楽しかったことやおもしろかったことを見つける。 ☆道徳：書くことをとおして自分の日常生活を振り返る。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ） 【態度】積極的に事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、今までの学習を生かして絵日記を書くようにしている。
2	5 (話す聞く5)	なつの おもいでを はなそう	◇相手の話の内容を受けて話したり、自分からすすんで話したりする。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒◎思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。⇒思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。⇒◎思判表A(1)エ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。⇒思判表A(2)ア ☆生活科：身近な自然や生活経験に興味をもつ。 ☆道徳：自分の生活について話したり、友達的生活について聞いたりして、自分について振り返る。	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aア） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ） 【態度】積極的に話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、学習の見通しをもって質問や感想を言おうとしている。
2	2	かたかなの ことば	△身のまわりの片仮名で書く言葉や表記を理解し、正しく書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ ☆生活科：身のまわりの自然や食べ物、道具に興味をもつ。 □場面の様子を想像しながら、お話を読む楽しさを味わう。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ ☆道徳：けんかした経験を出し合ったり、登場人物の気持ちを想像したりして、相手の気持ちになる。	◎【知識・技能】片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】積極的に片仮名で書く語の種類を知り、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。
2	6	けんかした 山		◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ） ◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ） 【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって考えたことを発表したり文章にまとめたりしようとしている。
2	2	(みんなで たのしく よみましょう。)	□役割を決めてグループで音読する。 △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒◎思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ） 【態度】進んで文章を読んで感じたことを共有し、学習の見通しをもって役割を決めて音読しようとしている。

	3	かん字の はじまり	△漢字には、絵からできたものとしるしからできたものがあることを理解する。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】進んで当該学年で配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。
2	7	だが、たべたのでしょうか	□問いの文と答える文や写真と文の対応に気をつけながら、動物の食べ跡について説明した文章を読む。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)ウ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒◎知技(1)カ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 ⇒思判表C(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ □事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。 ⇒思判表C(2)ア	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cア） 【態度】積極的に時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって分かったことや思ったことを話そうとしている。
2	13 (書く13)	たのしかった ことを かこう	■日常生活の中から書くことを見つけ、簡単な文章を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ⇒思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ☆生活科：見つけたことやおもしろかったことなどをメモしておく。 ☆道徳：友達や自分のよいところを見つける。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ） 【態度】進んで経験したことから書くことを見付け、学習の見通しをもって文章を書こうとしている。
2	2	かぞえうた	△数え歌をもとにして、漢字を使った数の読み方に慣れるようにする。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ △長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かに気付くこと。 ⇒◎知技(3)イ ☆音楽科：手拍子などで拍子を取りながらリズムよく読む。	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ） ◎【知識・技能】長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに親しんでいる。（〔知識及び技能〕(3)イ） 【態度】進んで言葉遊びに親しみ、学習の見通しをもってリズムよく音読しようとしている。
	3	かぞえよう	△一から十までの漢数字を正しく読み、書く。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ ☆算数科：正しい読み方で十までの数を数える。個数や順番を正しく数えたり表したりする。	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】進んで漢字を読み、学習の見通しをもって文や文章の中で使うようとしている。
2	2	しを よもう あめの うた	□イメージの広がりや音読をとおして、詩を楽しむ。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ） 【態度】進んで言葉の響きなどに気を付けて、学習の見通しをもって音読しようとしている。

2	6 (書く6)	見つけたよ、いきもの ひみつ	■生き物と触れ合ったことや見聞きしたことを思い出して書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ☆生活科：観察カードを書く活動などに生かすことができる。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア） 【態度】積極的に経験したことから書くことを見付け、学習の見通しをもって文章を書こうとしている。
2	15 (書く10)	一 かかれて いる ことを たしかめよう	□■自動車の「やくわり」と「つくり」に気をつけて読み、乗り物のことを紹介する文章を書く。	
2	5	はたらく じどう車	□「やくわり」と「つくり」に気をつけて、はたらく自動車について説明した文章を読む。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 ⇒知技(1)キ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒知技(1)ク △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 ⇒◎思判表C(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ □事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。 ⇒思判表C(2)ア	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cア） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ） 【態度】進んで時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって分かったことを説明しようとしている。
2	10 (書く10)	「のりものカード」で しらせよう	■乗り物について、カードを用いて順序にそって簡単な構成の説明の文章を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ⇒思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ☆生活科など：読み上げてまちがいを見つける方法は、生活科などでも応用できる。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ） 【態度】進んで事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、学習の見通しをもって「のりものカード」を書こうとしている。

2	5 (話す聞く5)	えを 見て おはなししよう	◇絵を見て話題を見つけ、友達と話したり、友達の話を受けて答えたりする。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 →知技(1)イ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 →◎知技(1)オ △身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 →◎思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 →思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 →思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 →思判表A(1)エ ◇互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。 →思判表A(1)オ ◇尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。 →思判表A(2)イ	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ) ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aア) 【態度】進んで話題を決め、学習課題に沿って少人数で話し合おうとしている。
2	2	かん字の ひろば ① 日づけと よう日	△日付と曜日を表す漢字を正しく読む。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。 →◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 →知技(1)オ	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。(〔知識及び技能〕(1)エ) 【態度】積極的に漢字を読み、学習課題に沿って音読しようとしている。
2	16(書く10)	二 しゃしんと 文から、だれが なにを したかを たしかめよう	□■写真と文から誰が何をしたかを読み、写真から言葉を想像してお話を書く。	
2	10 (書く4)	うみへの ながい たび	□白くまの様子を考えながら声に出して読み、写真と文から、誰が何をしたかを確かめる。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 →知技(1)ア △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 →◎知技(1)ク ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 →思判表B(1)ア □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 →◎思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 →◎思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 →思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 →思判表C(1)カ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 →思判表B(2)ウ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 →思判表C(2)イ ☆道徳：D 生命の尊さ 生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク) 【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) 【態度】進んで場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、学習の見通しをもって考えた言葉を発表しようとしている。
2	6 (書く6)	きこえて きたよ、こんな ことは	■写真をもとに、ふきだしの中の言葉を考えて、お話を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 →◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 →◎思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 →思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 →思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 →思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けると。 →思判表B(1)オ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 →思判表B(2)ウ	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) 【態度】進んで想像したことから書くことを見付け、今までの学習を生かして簡単なお話を書こうとしている。

2	3	天に のぼった おけやさん	△古くから伝わっている話を、興味をもって聞き、好きなどころを音読する。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 ⇒◎知技(3)ア □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆生活科：地域に伝わる昔話や神話・伝承などを調べ、興味をもつ。 ☆道徳：C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。	◎【知識・技能】昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。(〔知識及び技能〕(3)ア) 【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) 【態度】進んで昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、学習の見通しをもっておもしろかったところを発表しようとしている。
2	2	かたかな	△片仮名の書き方や使い方に慣れ、正しく使う。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、 「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ	◎【知識・技能】片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ) 【態度】積極的に片仮名を読み、見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。
2	2	かん字の ひろば ② かん字の よみかた	△漢字には、使い方によって読み方が変わるものがあることを理解する。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。(〔知識及び技能〕(1)エ) 【態度】進んで漢字を読み、今までの学習を生かして使う方によって複数の読み方がある漢字を知ろうとしている。
2	4 (書く4)	ころろ ぼかぼか 手がみを かこう	■相手を決めて、気持ち伝わるように手紙を書く。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ⇒思判表◎B(1)エ ■日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)イ	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けているとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ) 【態度】粘り強く文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正し、学習の見通しをもって手紙を書くようとしている。
2	10	三 ばめんの ようすを くらべて よもう	□人物の動きや場面の様子の楽しさを読み、読書の世界を広げる。	
2	5	スイミー	□どのようなお話か考えながら読み、おもしろかったところを紹介する。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 ⇒◎知技(3)エ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：D 生命の尊さ 生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。	◎【知識・技能】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(〔知識及び技能〕(3)エ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) 【態度】進んで場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って考えた言葉を発表しようとしている。
2	5	「おはなしどうぶつえん」をつくって、本を しょうかいしよう	□動物の出でくる本を読んで、友達に紹介する。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒◎思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ □学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。 ⇒思判表C(2)ウ	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ) 【態度】積極的に文章を読んで感じたことや分かったことを共有し、今までの学習を生かして「おはなしどうぶつえん」を作り、本を紹介しようとしている。

3	1	しを たのしもう ゆき	△イメージの広がりや音読をとおして、詩を楽しむ。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 →知技(1)オ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 →知技(1)ク □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 →思判表C(1)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 →思判表C(2)イ	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) 【態度】進んで言葉の響きなどに気を付けて、学習の見直しをもって音読しようとしている。
3	14 (書<5)	四 ぶんしょうと えを あわせて よもう	□文章と絵の対応に気をつけながら読み、いろいろな身振りが表すことを説明する文章を書く。	
		みぶりで つたえる	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 →知技(1)ア △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 →知技(1)キ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 →知技(2)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 →思判表B(1)イ □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 →思判表C(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 →思判表C(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 →思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 →思判表C(1)カ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 →思判表B(2)ア □事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。 →思判表C(2)ア ☆総合的な学習の時間・生活科など：日常生活の中で使う身振りについて振り返り、気持ちを相手に伝える際に役立てる。	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア) 【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ) 【態度】積極的に文章の内容と自分の体験とを結び付けて、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。
3	1	文を つくろう	△主語と述語の関係に気をつけながら、いろいろな文を作る。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 →知技(1)オ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 →知技(1)カ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 →知技(2)ア	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。(〔知識及び技能〕(1)カ) 【態度】進んで文の中における主語と述語との関係に気付こうとし、学習課題に沿って簡単な文を作ろうとしている。
3	2	かん字の ひろば ③ かわる よみかた	△使い方によって漢字の読み方が変わるものがあることを理解する。	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。(〔知識及び技能〕(1)エ)
3	8 (話す聞<8)	五 きいた ことを 正しく つたえよう	◇学校で働く人に、知りたいことを尋ねて、聞いたことをメモをもとに学級のみんなに知らせる。	
		学校の ことを つたえあおう	△音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 →知技(1)イ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 →知技(1)キ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 →思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 →思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 →思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 →思判表A(1)エ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 →思判表A(2)ア	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(〔知識及び技能〕(1)イ) ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ) ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ) 【態度】進んで伝えたい事柄や相手に応じて声の大きさや速さなどを工夫し、今までの学習を生かして聞いたことを伝えようとしている。
3	3	ことばで つたえよう	△目の前にあるものや経験したことなどを言葉を使って言い表し、言葉の便利さやおもしろさなどを理解する。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 →知技(1)ア △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 →知技(1)オ	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア) 【態度】進んで、言葉には事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付こうとし、学習課題に沿って言葉で表そうとしている。
3	8 (書<8)	六 つたえたい ことを おもい出して かこう	■経験したことや見たことを思い出し、わかりやすい文章を書く。	

		おもい出の アルバム	△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、 「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」） の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ⇒◎思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒◎思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、 「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けているとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ） 【態度】積極的に文章に対する感想を伝え合い、学習の見通しをもってよいことを伝え合おうとしている。
3	3	かん字の ひろば ④ にて いる かん字	△形の似た漢字を正しく読んだり、書いたりする。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア	◎【知識・技能】当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に漢字を読み、学習課題に沿って形の似た漢字を正しく読んだり書いたりしようとしている。
3	1	しりとりで あそぼう	△二音節単位でつなげていく「しりとり遊び」のあることを知り、実際に活動してみる。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ	◎【知識・技能】音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)イ） 【態度】進んで音節と文字との関係に気付こうとし、今までの学習を生かしてしりとりを楽しもうとしている。
3	15 (書く5)	七 ようすを おもいかべながら よもう	□様子を思い浮かべて読み、登場人物に手紙を書く。	
		お手がみ	△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒◎知技(1)カ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒知技(1)ク ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒◎思判表C(1)カ ■日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)イ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：B友情、信頼 友達と仲よくし、助け合うこと。	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)カ） 【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ） 【態度】進んで文章を読んで感じたことを共有し、学習課題に沿って登場人物に宛てて手紙を書くようにしている。
3	2 (話す聞く1, 書く1)	こくごの がくしゅう これまで これから	◇■一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、楽しみながら学習できるようにする。 ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒◎思判表A(1)ア ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aア） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア） 【態度】進んで話題を決め、今までの学習を生かして思い出したことや二年生でどんな学習をしたいかを共有しようとしている。

令和5年度 国語科 評価規準（2 学年） 江戸川区立平井西小学校				
学期	時数	単元名	評価の観点	Bの評価規準
1	6 (書く4)	ことばと であおう	□■詩を体を動かしながら声に出して読んだり、日記を書いたりすることを楽しみ、国語学習への意欲をもつ。	
1	2	ちいさい おおきい	□体を動かしたり、声の大きさを工夫しながら、楽しく読もう。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ） 【態度】進んで言葉の響きなどに気を付けて、学習の見通しをもって音読しようとしている。
1	4 (書く4)	つづけて “みよう” “日記”	■毎日の生活を振り返り、日記を書く。 △長音、抑音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)イ ☆生活科：観察日記を書く活動に生かすことができる。	◎【知識・技能】長音、抑音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア） 【態度】積極的に経験したことから書くことを見付け、学習の見通しをもって日記を書こうとしている。
1	3 (話す聞く3)	声の ものさしを つかおう	◇いろいろな場面で、話す声の大きさを考えて、気をつけて話すことの大切さに気づく。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒◎思判表A(1)ウ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア	◎【知識・技能】音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ） 【態度】積極的に声の大きさや速さなどを工夫し、学習の見通しをもって話そうとしている。
1	13 (話す聞く3)	一 どうじょう人物の した ことに 気を つけて 読もう	□登場人物の様子を思いうかべながら読み、くまの子になったつもりで音読する。	
		「えいっ」	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ⇒思判表A(1)エ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：B 感謝 家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） 【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ） 【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもっておもしろいところを紹介しようとしている。
1	2 (話す聞く2)	ひろい 公園	◇質問を落とさないように聞き、絵から答えを探す。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ⇒◎思判表A(1)エ ◇尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。 ⇒思判表A(2)イ	◎【知識・技能】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ） 【態度】積極的に自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、学習課題に沿って質問に答えようとしている。
1	2	漢字の ひろば ① 画と 書きじゅん	△漢字の画と筆順について理解し、正しく書く。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に漢字の筆順を理解し、学習の見通しをもって正しい筆順で漢字を書こうとしている。

	2 (書く2)	1年生で 学んだ 漢字 ①	△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書く、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を順次書き、文や文章の中で使うこと。 ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) 【態度】積極的に前学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって文を書くこととしている。
1	13 (書く3)	二 じゅんじょに 気を つけて 読み、つな ながりを 見つけよう	△ありとの関わり方に気をつけながら、すみれが仲間を増やす仕組みについて説明した文章を読む。	
		すみれと あり	△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒知技(1)カ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。⇒◎思判表C(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア □事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。⇒思判表C(2)ア ☆生活科：順序に気をつけて観察文などをまとめる。	◎【知識・技能】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア) 【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cア) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ) 【態度】進んで時間的な順序や事柄の順序などを考え、内容の大体を捉え、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。
1	2	「言葉あそび」を しよう	△平仮名四十七文字を全て使った歌のあることを知り、音読する。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒知技(1)イ △語のまとまりや言葉の響きなどに気付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク △長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。⇒◎知技(3)イ	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気付けて音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク) ◎【知識・技能】長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。(〔知識及び技能〕(3)イ) 【態度】進んで長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付こうとし、学習の見通しをもって音読しようとしている。
1	3	かたかなで 書く 言葉	△片仮名で書く言葉の種類を知り、正しく使い分ける。 △長音、抑音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ	◎【知識・技能】片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ) 【態度】積極的に片仮名で書く語の種類を知ろうとし、今までの学習を生かして文を書くこととしている。
1	8 (書く6)	三 本で しらべて しょうがいしよう	△■図書館で本を探す方法を知り、生き物について調べたことからクイズを作る。	
1	2	図書館で 本を さがそう	△図書館に行き、自分が調べたり読んだりしたいテーマの本を探して、読む。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒知技(1)カ △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。⇒◎知技(3)エ □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。⇒◎思判表C(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ □学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。⇒思判表C(2)ウ	◎【知識・技能】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(〔知識及び技能〕(3)エ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ) 【態度】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本の探し方を知ろうとしている。
1	6 (書く6)	「生きものクイズ」を 作ろう	■生き物について知りたいことを調べ、クイズを作る。 △身近なことを表す語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。⇒知技(3)エ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎B思判表(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。⇒思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ☆生活科など：題材は生活科で学んだ生き物から選ばせることもできる。	◎【知識・技能】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ) 【態度】積極的に必要な事柄を集めたり確かめたりし、学習の見通しをもって「生きものクイズ」を作ろうとしている。

1	2	漢字の ひろば ② なかまの 言葉と 漢字	△意味をもとに仲間に分けた漢字について理解する。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)エ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって漢字の意味のつながりを知らうとしている。
1	4 (話す聞く2)	うれしく なる 言葉	△言葉が表す意味と、その言葉にこめられる気持ちについて考え、話し合う。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒◎思判表A(1)ウ ◇尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。 ⇒思判表A(2)イ	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(【知識及び技能】(1)ア) ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Aウ) 【態度】積極的に言葉には事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付くこうとし、学習の見通しをもって「うれしくなる言葉」を伝え合おうとしている。
1	15 (書く3)	四 くりかえしに 気を つけて、とうじょう人物の 様子を 読もう	□繰り返し出てくる言葉に氣をつけて読み、繰り返しのあるお話を作る。	
		きつねの おきゃくさま	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ △語のまとまりや言葉の響きなどに氣を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けすること。 ⇒思判表B(1)オ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒思判表C(1)イ ⇒◎思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆生活科：身近な生き物などを登場人物にした物語を作り、友達に紹介する。 ☆道徳：D生命の尊さ 生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに氣を付けて音読している。(【知識及び技能】(1)ク) 【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。(【思考力、判断力、表現力等】Bオ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(【思考力、判断力、表現力等】Cエ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(【思考力、判断力、表現力等】Cオ) 【態度】進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って好きな場面を発表しようとしている。
1	5	いなばの しろうさぎ	△古くから伝わっている話を、興味をもって聞き、場面の様子を想像する。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 ⇒◎知技(3)ア ☆生活科：地域に伝わる昔話や神話・伝承などを調べ、興味をもつ。 ☆道徳：C伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。	◎【知識・技能】昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。(【知識及び技能】(3)ア) 【態度】進んで昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、今までの学習を生かして昔話や神話・伝承の書かれた本を探して読もうとしている。
1	4 (書く4)	「かんさつ発見カード」を書こう	■観察して同じところや違うところを見つけ、「かんさつ発見カード」を書く。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒◎知技(1)カ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ☆生活科：観察カードを書く活動などに生かすことができる。	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。(【知識及び技能】(1)カ) ◎【知識・技能】共通、相違、事柄の順序など情報と情報について理解している。(【知識及び技能】(2)ア) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bイ) 【態度】粘り強く事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、学習の見通しをもって「かんさつ発見カード」を書こうとしている。
1	2	「言葉のなかまさがしゲーム」をしよう	△言葉が体系性をもって存在していることに気づき、上位語・下位語の概念に基づいて、言葉を探したりまとめたりすることができる。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(【知識及び技能】(1)オ) 【態度】積極的に、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付くこうとし、学習の見通しをもって言葉を分類しようとしている。
2	5 (話す聞く5)	話したいな。聞きたいな。夏休みのこと	◇夏休みの思い出を、順序を考えて話す。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基いて、話す事柄の順序を考えること。 ⇒◎思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ⇒思判表A(1)エ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それら聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(【知識及び技能】(1)イ) ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基いて、話す事柄の順序を考えている。(【思考力、判断力、表現力等】Aイ) 【態度】進んで相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、今までの学習を生かして夏休みのできごとを紹介しようとしている。

2	2	漢字のひろば ③ 二つの漢字でできている言葉	△二つの漢字でできた言葉の構成について、問題を解きながら確認し、二つの漢字のつながり方を考える。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付かせ、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)エ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって二つの漢字でできている言葉を読んだり書いたりしようとしている。
	2 (書く2)	漢字のひろば ③ 一年生で学んだ漢字 ②	△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒◎知技(1)カ ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。(【知識及び技能】(1)カ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) 【態度】積極的に文の中における主語と述語の関係に気付こうとし、学習の見通しをもって文や文章を書こうとしている。
2	12 (書く3)	五 したことや言ったことから、登場人物の考えを読もう	□登場人物のしたことを思い浮かべながら読み、登場人物に手紙を書く。	
		わにのおじさんのたからもの	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒◎知技(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒◎思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ □読み聞かせを聞いたり物語などを读んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ ☆道徳：D感動、畏敬の念 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつこと。	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(【知識及び技能】(1)ア) 【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(【思考力、判断力、表現力等】Cエ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(【思考力、判断力、表現力等】Cオ) 【態度】進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って登場人物に手紙を書こうとしている。
9	2	ほんたいのいみの言葉、にたいみの言葉	△対義語や類義語があることを知り、身近な言葉から対義語や類義語を集めることができる。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付かせ、語彙を豊かにすること。⇒◎知技(1)オ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付かせ、語彙を豊かにしている。(【知識及び技能】(1)オ) 【態度】積極的に言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付こうとし、学習の見通しをもって言葉を分類しようとしている。
2	11 (書く11)	六 まとまりを考えて書こう	■「はじめ」「中」「おわり」のまとまりを考えて、町探検報告文を書く。	
		町の「すてき」をつたえます	△長音、抑音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。⇒◎思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ☆生活科：生活科見学の報告文を書くときに生かすことができる。	【知識・技能】長音、抑音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)ウ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bイ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けているとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。(【思考力、判断力、表現力等】Bエ) 【態度】積極的に事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、今までの学習を生かして報告する文章を書こうとしている。
2	2(書く1)	七 しやしんをくらべて、考えよう	□1枚めの写真から視点を定めて、2枚めの写真になった際、何かが起きたことを想像する。	
		この間に何があった？	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付かせ、語彙を豊かにすること。⇒◎知技(1)オ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒◎思判表B(1)イ □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)ア □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒◎思判表C(1)オ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ □学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。⇒思判表C(2)ウ	◎【知識・技能】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(【知識及び技能】(2)ア) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bイ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(【思考力、判断力、表現力等】Cア) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(【思考力、判断力、表現力等】Cオ) 【態度】積極的に共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解し、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。

2	11 (話す聞く 3)	一 じゅんじょや様子に気をつけて読もう	□さけの成長について、季節や場所、さけの様子の移り変わりを考えながら、内容の大体を読む。	
		さけが大きくなるまで	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えると。 ⇒思判表A(1)イ □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 ⇒思判表C(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 ⇒◎思判表C(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア □事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。 ⇒思判表C(2)ア ☆生活科：順序に気をつけて観察文などをまとめたり、調べたことを発表したりする。	◎【知識・技能】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） 【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aイ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ） 【態度】積極的に文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、学習課題に沿ってさけが大きくなる様子を説明しようとしている。
2	10 (書く10)	二 様子をよく見て、くわしく書こう	■見つけた物の様子をよく見て、様子が伝わるように詳しく書く。	
		おもしろいもの、見つけたよ	△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表◎B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ⇒思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒◎思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ☆生活科：題材は生活科で扱ったものから選ぶこともできる。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ） 【態度】進んで文章に対する感想を伝え合い、学習の見通しをもって記録する文章を書こうとしている。
	2	しを読もう てんとうむし 木	□イメージの自由な広がりをおして、詩を楽しむ。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ） 【態度】進んで言葉の響きなどに気を付けて、学習の見通しをもって感想を発表しようとしている。
2	12	三 だれが、どのようにかわったかを考えて読もう	□△登場人物のしたことや言ったこと、場面の様子を読み、読書の世界を広げる。	
2	7	ないた赤おに	□登場人物の気持ちの移り変わりを考えながら、『ないた赤おに』を読み、心に残ったことを話し合う。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：B友情、信頼 友達と仲よくし、助け合うこと。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ） 【態度】進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って心に残ったところを文章にまとめようとしている。
2	5	「お話びじゅつかん」を作ろう	△自分の読んだ本の中でいばん心に残ったところを絵に描いて紹介する。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 ⇒◎知技(3)エ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒◎思判表C(1)カ □学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。 ⇒思判表C(2)ウ	◎【知識・技能】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（〔知識及び技能〕(3)エ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ） 【態度】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本を紹介しようとしている。
2	8 (話す聞く 8)	四 う しつもんしたり答えたりして、話し合おう	◇話し合いでクラスで行う遊びを決め、「クラスお楽しみ会」を開く。	

		「クラスお楽しみ会」をひらこう	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ⇒思判表A(1)エ ◇互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。 ⇒◎思判表A(1)オ ◇尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。 ⇒思判表A(2)イ	◎【知識・技能】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(【知識及び技能】(2)ア) ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(【思考力、判断力、表現力等】Aオ) 【態度】積極的に互いの話に関心を持ち、今までの学習を生かして少人数で話し合おうとしている。
2	5 (書く5)	みじかい言葉で	■心が動いたことを短い言葉で書く。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(【知識及び技能】(1)ア) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) 【態度】積極的に語と語や文と文との続き方に注意しながら、学習の見通しをもって心が動いたことを短い言葉で書こうとしている。
2	2	漢字の広場 ④ 漢字のつかい方と読み方	△漢字の使い方や読み方、意味などを考えて漢字を正しく使う。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ	◎【知識・技能】当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。(【知識及び技能】(1)エ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって漢字を正しく使おうとしている。
2	2 (書く2)	漢字の広場 ④ 1年生で学んだ漢字 ③	△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)エ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) 【態度】積極的に前学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって文や文章を書こうとしている。
2	19 (書く10)	五 わかりやすくせつめいするための、くふうをたしかめよう	□■説明の順序を正しく捉えながら読み、おもちゃの作り方を説明する。	
2	12 (書く3)	「しかけ絵本」を作ろう	□説明の順序に気をつけながら、「しかけ絵本」の仕組みや作り方を学んだ文章を読む。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 ⇒◎思判表C(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア □事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。 ⇒思判表C(2)ア ☆生活科・図工：順序に気をつけて作業の手順を説明する文章を書く。	【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(【知識及び技能】(1)ア) 【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bイ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(【思考力、判断力、表現力等】Cア) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(【思考力、判断力、表現力等】Cウ) 【態度】進んで時間的な順序や事柄の順序などを考え、学習課題に沿って「しかけ絵本」を作ろうとしている。
12	7 (書く7)	おもちゃのせつめい書を書こう	■おもちゃの作り方や遊び方の順序を考えて、説明書を書く。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ⇒◎思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ☆生活科：題材は生活科で扱ったおもちゃや選ぶこともできる。	◎【知識・技能】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(【知識及び技能】(2)ア) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けているとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。(【思考力、判断力、表現力等】Bエ) 【態度】粘り強く語と語や文と文との続き方に注意し、学習の見通しをもって説明する文章を書こうとしている。

3	2	しを読もう せかいじゅうの海が	□イメージの自由な広がりをおして、詩を楽しむ。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒知技(1)ク □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒◎思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ) 【態度】積極的に文章を読んで感じたことや分かったことを共有し、学習の見通しをもって想像したことを発表しようとしている。
3	11 (話す聞く 3)	六 場面や人物の様子をくわしく読もう	□様子を詳しく読んで、読み方を工夫して音読発表会を開く。	
		かさこじぞう	△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒知技(1)ク △音話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 ⇒知技(3)ア ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ⇒思判表A(1)エ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒◎思判表C(1)カ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：C伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク) ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ) 【態度】進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習の見通しをもって音読発表会しようとしている。
3	3	むかしのあそび	△日本に古くから伝承されている昔遊び(正月遊び)を知り、実際に遊ぶことを通してその魅力を知る。	◎【知識・技能】長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。(〔知識及び技能〕(3)イ)
3	4 (話す聞く 4)	むかしのあそびをせつめいしよう	◇昔の遊びについて、遊び方を調べて説明する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ⇒◎思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ⇒思判表A(1)エ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(〔知識及び技能〕(1)イ) ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aイ) 【態度】進んで相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、今までの学習を生かして昔の遊びの遊び方を説明しようとしている。
3	3	主語とじゅつ語	△文を読んで、主語と述語の対応を考え、正しく使うことができる。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒◎知技(1)カ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。(〔知識及び技能〕(1)カ) 【態度】積極的に文の中における主語と述語との関係に気付き、学習の見通しをもって文を読んだり書いたりしようとしている。
3	2	漢字の広場 ⑤ 同じ読み方の漢字	△同じ読み方の漢字を集め、漢字を正しく使う。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ	◎【知識・技能】当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。(〔知識及び技能〕(1)エ) 【態度】積極的に当該学年までに配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって同じ読み方の漢字を正しく使おうとしている。
3	13 (書く13)	七 じゅんじょに気をつけて書こう	■したことや身のまわりのできごとの中から書くことを見つけ、思い出して、順序を考えて書く。	
		こんなことができるようになったよ	△長音、抑音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ △丁寧な言葉と普通言葉の違いに気を付けて使うとともに、敬虔で書かれた文章に慣れること。 ⇒知技(1)キ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ⇒◎思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒◎思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	◎【知識・技能】長音、抑音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けているとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ) 【態度】積極的に、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりし、学習の見通しをもって文章を書くこととしている。

3	3	音や様子をあらわす言葉	△擬声語や擬態語のはたらきなどを理解し、文の中で使うことができる。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） 【態度】積極的に、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、学習の見通しをもって文の中で使おうとしている。
3	2	漢字の広場 ⑥ 組み合わせでできている漢字	△同じ部分をもつ漢字を集め、漢字を正しく使う。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア	◎【知識・技能】当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に当該学年までに配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって同じ部分をもつ漢字を正しく使おうとしている。
	2 (書く2)	漢字の広場 ⑥ 一年生で学んだ漢字 ④	△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ⇒思判表B(1)エ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） 【態度】積極的に前学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって文を書くこととしている。
3	16 (書く4)	八 場面の様子や登場人物の行動に気をつけて読もう	□お話の順序に気をつけて読み、あらすじをまとめて紹介する。	
		アレクサンダとぜんまいねずみ	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：B友情、信頼 友達と仲よくし、助け合うこと。	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） 【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ） ◎【読むこと】において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ） 【態度】進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもち、学習課題に沿って文章にまとめようとしている。
3	2 (話す聞く1,書く1)	国語の学習 これまで これから	◇■一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、楽しみながら学習できるようにする。 ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ⇒思判表A(1)エ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア） 【態度】進んで経験したことから書くことを見付け、今までの学習を生かして思い出したことや三年生でどんな学習をしたいかを共有しようとしている。

令和5年度 国語科 評価規準（3 学年） 江戸川区立平井西小学校				
学	時数	単元名	評価の観点	Bの評価規準
1	4 (話す聞<2>)	ことばに親しもう	□○声に出して読んだり、わかりやすく話したりすることや、内容を読み取ったりすることを通して、国語学習への意欲をもつ。 ○「自己紹介ビンゴゲーム」を通して、自身のことを紹介し合う。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ ○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ○相手を意識して、話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら、話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ○話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ○必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。 ⇒思判表A(1)エ ○質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 ⇒思判表A(2)イ	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(〔知識及び技能〕(1)イ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aア) 【態度】進んで日常生活の中から話題を決め、学習の見通しをもって情報を集め、自身のことを紹介し合おうとしている。
1	2 (話す聞<2>)	「じじょうかいビンゴゲーム」をしよう	△言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ク △相手を意識して、話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら、話の構成を考えること。 ⇒知技(3)オ □登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	◎【知技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ) 【態度】進んで登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って工夫して音読しようとしている。
1	9 (書く<2>)	ー ばめんのつながりに気をつけて読もう	□登場人物の行動や気持ちを思い浮かべながら読み、物語の続きを予想する。	
		白い花びら	△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ △主題と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(2)ア ■読みにした表現について、書こうとしたことが明確になっているかなどについて、文章の内容や表現のよいところを見付けよう。 ⇒思判表B(1)オ □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □場面の移り変わりや結びつけて、登場人物の性格や気持ちの変化、情景について具体的に思い描くこと。 ⇒思判表C(1)エ □文章などを読んで理解したことに基いて、感想や考えを持つこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒思判表C(1)カ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことについての考え方を深める。	◎【知技】主題と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ) ◎【知技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(〔知識及び技能〕(3)オ) 【思判表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) 【態度】進んで登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって考えたことを友達と紹介し合おうとしている。
1	3 (書く<3>)	「発見ノート」を作ろう	■毎日の生活の中での発見や不思議に思ったことなどを「発見ノート」に書く。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア ■相手を意識して、経験したことや想像したことなどから書きたいことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にする。 ⇒思判表B(1)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ☆理科：観察ノートへの応用を図ることができる。	◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア) ◎【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) 【態度】積極的に伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって「発見ノート」を作ろうとしている。
5	2	国語辞典の引き方	△国語辞典の引き方を理解し、辞典を活用する。 △様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ	◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ) 【態度】積極的に辞書や事典の使い方を理解し、学習課題に沿って国語辞典を活用しようとしている。
1	6 (話す聞<6>)	二 すじみちを立てて発表しよう	○中心点をはっきりさせたり、理由を添えたりして自分の宝物を紹介し、友達の意見や感想をもとによりよい発表にする。	
		たからものをしょうかいしよう	△言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア ○目的を意識して、日常生活において伝えたいことなどから話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、話題に合うことを選ぼう。 ⇒思判表A(1)ア ○相手を意識して、話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら、話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ○話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ○必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ⇒思判表A(1)エ ○説明や報告など、調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア	◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aイ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ) 【態度】粘り強く話の構成を考え、今までの学習を生かして自分の宝物を紹介しようとしている。
1	2 (話す聞<2>)	聞いてさがそう	○大事なことは何かを考えて、メモを取りながら道順の説明を聞く。 △相手を意識して話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ ○目的を意識して、日常生活において伝えたいことなどから話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、話題に合うことを選ぼう。 ⇒思判表A(1)ア ○相手を意識して、話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら、話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ○話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ○必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ⇒思判表A(1)エ ○説明や報告など、調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。 ⇒思判表A(2)イ	◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ) 【態度】進んで必要のことを記録したり質問したりしながら聞き、学習の見通しをもって情報を集めようとしている。
1	2 (話す聞<2>)	漢字の広場 ① 漢字学習ノート	△新しく学ぶ漢字や既習の漢字を使って漢字学習ノートを作る。 △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改訂の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒知技(1)ウ △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を覚えること。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を熟読書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ △漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。 ⇒知技(3)ウ	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって「漢字学習ノート」を作ろうとしている。

	2 (書く2)	漢字の広場 ① 2年生で学んだ漢字 ①	△絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)エ) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書くようにしている。
1	12 (書く2)	三 だんらくの要点をつかもう		
1	2	うめぼしのはたらき	△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ △段落相互の関係に着目しながら、考えと理由、事例の関係などを叙述を基に捉えること。 ⇒◎思判表C(1)ア □目的を意識して、中心となる語や文を見つけて内容を要約すること。 ⇒◎思判表C(1)ウ □記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(【知識及び技能】(1)カ) ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(【知識及び技能】(2)ア) ◎【思判表】「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(【思考力、判断力、表現力等】Cウ) ◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(【思考力、判断力、表現力等】Cウ) 【態度】粘り強く、目的を意識して、中心となる語や文を見付け、学習課題に沿って要点をまとめようとしている。
1	10 (書く2)	めだか	□段落の要点に気をつけて読み、わかったことや大きなことをまとめる。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■書こうとするものの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ □段落相互の関係に着目しながら、考えと理由、事例の関係などを叙述を基に捉えること。 ⇒◎思判表C(1)ア □目的を意識して、中心となる語や文を見つけて内容を要約すること。 ⇒◎思判表C(1)ウ □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒思判表C(1)カ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア □記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア □学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。 ⇒思判表C(2)ウ	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(【知識及び技能】(1)カ) 【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bイ) ◎【思判表】「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(【思考力、判断力、表現力等】Cア) ◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(【思考力、判断力、表現力等】Cウ) 【態度】粘り強く、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約し、学習課題に沿って分かったことや大きなことをまとめようとしている。
1	4 (書く1)	俳句に親しむ	△俳句を声に出して読み、言葉のリズムにふれる。 △新しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 ⇒◎知技(3)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ ☆道徳：我が国や郷土の伝統と文化を大切にする。 ☆図書館活用：俳句への関心を広げる。	◎【知技】新しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(【知識及び技能】(3)ア) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) 【態度】進んで新しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどし、学習の見通しをもって言葉の響きやリズムに親しもうとしている。
1	13 (書く10)	四 しりょうを集めて活用しよう		
1	3	本で調べよう	△本の仕組みやつくりを知り、それをもとに知りたいことに応じた本を探して読み、必要な事柄を「読書カード」に記録する。 知りたい情報を見つけるための方法を知り、それをもとに目的に応じた本を探して読み、必要な事柄を「読書カード」に記録する。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ □目的を意識して、中心となる語や文を見つけて内容を要約すること。 ⇒◎思判表C(1)ウ □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。 ⇒思判表C(1)オ □記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア □学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。 ⇒思判表C(2)ウ ☆理科：図鑑の活用	◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(【知識及び技能】(2)イ) ◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(【思考力、判断力、表現力等】Cウ) 【態度】積極的に、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約し、学習課題に沿って分かったことを説明しようとしている。
1	10 (書く10)	クラスの「生き物ブック」を作ろう	■図や資料を使って、生き物の特徴を比べて書く。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■書こうとするものの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。 ⇒思判表B(1)エ ■感想や意見を伝え合い、書こうとしたことが明確になっているかなどについて、文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ☆理科：観察記録文の書き方に活用することができる。	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(【知識及び技能】(1)カ) ◎【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(【思考力、判断力、表現力等】Bア) ◎【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bイ) 【態度】粘り強く文章の構成を考え、学習の見通しをもって説明する文章を書くようにしている。
1	2	漢字の広場 ② 漢字の音と訓	△漢字の音と訓について理解する。 △漢字と仮名を用いた表記。送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒知技(1)ウ △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)エ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習課題に沿って、漢字の「音」と「訓」について知り、正しく使おうとしている。
	2 (書く2)	漢字の広場 ② 2年生で学んだ漢字 ②	△絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)エ) 【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(【思考力、判断力、表現力等】Bア) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようにしている。

1	9 (書<2)	五 登場人物のせいかくを考 えながら読もう	のらねこ	△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア △幅広く読書に関し、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■書くこととすることを明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。⇒◎思判表C(1)イ □場面の移りわりと結びつけて、登場人物の性格や気持ちの変化、情景について具体的に思い描くこと。⇒◎思判表C(1)エ □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。⇒思判表C(1)オ □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。⇒◎思判表C(1)カ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして、相手のことを思いやったり、互いに理解し信頼し合ったりすることについて考える。	◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。((知識及び技能)(1)オ) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。((思考力、判断力、表現力等)Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。((思考力、判断力、表現力等)Cイ) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移りわりと結び付けて具体的に想像している。((思考力、判断力、表現力等)Cエ) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移りわりと結び付けて具体的に想像している。((思考力、判断力、表現力等)Cカ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。((思考力、判断力、表現力等)Cカ) 【態度】進んで登場人物の性格について、場面の移りわりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって物語の感想を書くこととしている。
1	1 (書<1)	きせつの言葉を集めよう		△俳句には「季節」が読み込まれていることを知り、季節に関連する言葉を集める。 △新しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。⇒知技(3)ア △長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使うこと。⇒知技(3)イ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	◎【知技】長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使っている。((知識及び技能)(3)イ) 【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。((思考力、判断力、表現力等)Bア) 【態度】積極的に、長い間使われてきた季節を表す言葉の意味を知り、学習課題に沿って季節の言葉を集めようとしている。
2	1 (話す聞<1)	よく見て、話し合おう		◇等身をよく見て、気づいたことや考えたことについてグループで話し合う。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。⇒◎知技(1)ア △相手の話をききながら聞き取り、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。⇒知技(1)イ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒思判表A(1)ア ◇相手の話をききながら聞き取り、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。⇒思判表A(1)イ ◇話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。⇒思判表A(1)ウ ◇必要ことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。⇒思判表A(1)エ ◇目的や進め方を確認し、相違などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。⇒◎思判表A(1)オ ◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。⇒思判表A(2)ウ	◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。((知識及び技能)(1)ア) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司令などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。((思考力、判断力、表現力等)Aオ) 【態度】進んで目的や進め方を確認し、学習の見通しをもってグループで話し合おうとしている。
2	16 (話す聞<2,書<14)	六 つたえたいことをはっきりさせて書く		■◎取材を通してわかったことを、伝えたいことを明確にして報告文にまとめ、感謝やお礼の手紙を添えて送る。	
2	10 (話す聞<2,書<8)	取材して知らせよう インタビューをしよう		■◎取材メモを上手に使用して、組み立てて考えながら調べたことを文章にまとめる。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒知技(1)カ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア ◇必要ことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。⇒◎思判表A(1)エ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■書くこととすることを明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。⇒思判表B(1)エ ■感想や意見を伝え合い、書くこととしたことが明確になっているかなどについて、文章の内容や表現のよいところを見付けすること。⇒思判表B(1)オ ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。⇒思判表A(2)イ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ☆社会科：校外学習での報告文の作成に役立っている。	◎【知技】丁寧な言葉を使っているとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。((知識及び技能)(1)キ) ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((知識及び技能)(2)ア) 【思判表】「話すこと・聞くこと」において、必要ことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持っている。((思考力、判断力、表現力等)Aエ) ◎【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。((思考力、判断力、表現力等)Bイ) ◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。((思考力、判断力、表現力等)Bウ) 【態度】粘り強く、書く内容の中心を明確にして文章の構成を考え、学習の見通しをもって報告文を書くこととしている。
2	6 (書<6)	手紙を書いてつたえよう		■手紙の書き方を知り、目的に合わせた手紙を書く。 △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒◎知技(1)キ ■書くこととすることを明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。⇒◎思判表B(1)エ ■案内状や礼状を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。⇒思判表B(2)イ ☆社会科：総合的な学習の時間：依頼状やお礼状を書く際に活用できる。	◎【知技】丁寧な言葉を使っているとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。((知識及び技能)(1)キ) ◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。((思考力、判断力、表現力等)Bウ) ◎【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。((思考力、判断力、表現力等)Bエ) 【態度】粘り強く相手や目的を意識した表現になっているかを確かめ、学習の見通しをもって目的に合わせた手紙を書くこととしている。
2	2	漢字の広場 ① 送り仮名		△送り仮名は、漢字の読みや意味をはっきりさせるはたらきをもつことを理解し、漢字を正しく使う。 △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。⇒◎知技(1)ウ △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を覚むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。((知識及び技能)(1)ウ) 【態度】進んで送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使い、学習課題に沿って、漢字を正しく使おうとしている。
2	2 (書<2)	漢字の広場 ② 二年生で学んだ漢字		△絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を覚むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。((知識及び技能)(1)エ) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。((思考力、判断力、表現力等)Bウ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くこととしている。

2	9 (書く2)	七 場面のうつかりわりに気をつけて読もう	△場面に移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉える。	
		わすれられないおくりもの	△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ウ △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■書くこととすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつつたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □場面に移り変わりや結びつけて、登場人物の性格や気持ちの変化、情景について具体的に思い描くこと。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒思判表C(1)カ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合っ たりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことについての考え方を深める。	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。 (〔知識及び技能〕(1)カ) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像している。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) 【態度】進んで登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって、登場人物の言葉を考えようとしている。
2	4	ローマ字	△ローマ字に興味を持ち、ローマ字の書き方について理解し、ローマ字に親しみを持ち、読めるようにする。 △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ	◎【知技】日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。 (〔知識及び技能〕(1)ウ) 【態度】進んで、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で読んだり書いたりし、学習の見通しをもって、ローマ字に親しもうとしている。
2	1	ローマ字とコンピューター	△コンピューターにローマ字で入力をする際に大切なことを知り、コンピューターを活用する。 △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ	◎【知技】日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。 (〔知識及び技能〕(1)ウ) 【態度】進んで、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で読んだり書いたりし、学習の見通しをもってコンピューターにローマ字で入力しようとしている。
2	16 (話す聞<9、書く2)	一 絵文字の特長をとらえよう	◇身のまわりのさまざまな絵文字がどんなことを表しているかなどについて話し合い、絵文字に対する興味や関心を高める。	
2	3 (話す聞<2)	世界の人につたわるように	◇身のまわりの絵(絵文字)を友達と紹介し合う。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒◎思判表A(1)ア △目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。 ⇒思判表A(1)オ ◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。 ⇒思判表A(2)ウ	◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。 (〔知識及び技能〕(1)ア) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Aア) 【態度】進んで集めた材料を比較したり分類したりして、学習の見通しをもって、グループで話し合おうとしている。
	7 (書く2)	くらしと絵文字	□段落のつながりに気をつけて文章を読み、絵文字を説明する文章を書く。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■書くこととすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつつたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ □段落相互の関係に着目しながら、考えと理由、事例の間隔などを叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)ア □目的を意識して、中心となる語や文を見つけて内容を要約すること。 ⇒◎思判表C(1)ウ □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒思判表C(1)カ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア □記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア □学校図書館などを利用して、事象や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。 ⇒思判表C(2)ウ	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。 (〔知識及び技能〕(1)カ) ◎【思判表】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。 (〔知識及び技能〕(2)ア) 【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつつたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ) ◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ) 【態度】積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって、身のまわりの絵文字について説明する文章を書くこととしている。
2	7 (話す聞<7)	絵文字で表そう	◇司会や記録などの役割を決めて、保健室を表す絵文字についてグループですずんで話し合う。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)ウ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ △目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア △相手や目的を意識して、話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら、話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ △話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ △必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ⇒思判表A(1)エ △目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。 ⇒◎思判表A(1)オ ◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。 ⇒思判表A(2)ウ	◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。 (〔知識及び技能〕(2)イ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、相手や伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えている。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Aイ) 【態度】積極的に目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たし、学習の見通しをもってグループで話し合おうとしている。
2	4 (話す聞<2)	気持ちをたえる話し方・聞き方	△言葉にはいろいろな意味がこめられることを知り、気持ちが伝わる話し方・聞き方について考える。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ⇒◎思判表A(1)イ ◇話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。 ⇒思判表A(2)ウ	◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。 (〔知識及び技能〕(1)ア) 【思判表】「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えている。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Aイ) 【態度】進んで、言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこととし、見通しをもって、気持ちを伝えるための話し方・聞き方について考えようとしている。

2	2	漢字の広場 ④ へんやつくり	△へんやつくりなどの漢字の構成についての知識を得て、漢字を正しく読んだり書いたりする。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を覚えること。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を南次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。⇒知技(3)ウ	◎【知技】漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。(【知識及び技能】(3)ウ) 【態度】進んで、漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習の見通しをもって、漢字を正しく読んだり書いたりしようとしている。
	2	漢字の広場 ④ 二年生で学んだ漢字 ④	△絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を覚えること。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を南次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。⇒知技(3)ウ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)エ) 【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(【思考力、判断力、表現力等】B)ア 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くこととしている。
2	8	二 登場人物の気持ちをそうぞうしながら読もう	□会話や行動に注意して、互太やじまの気持ちの変化を想像し、物語のおもしろいところを紹介する。	
		モチモチの本	△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒知技(3)オ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■書くことによる語句のまとまりを明確にし、内容のまとまりや段落をつつたり、段落相互の関係に注意しながら、文章の構成を考えると、⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ □場面や移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。⇒思判表C(1)イ □場面の移り変わりや結びついて、登場人物の性格や気持ちの変化、情景について具体的に思い描くこと。⇒思判表C(1)エ □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。⇒思判表C(1)オ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ ☆道徳：物語の読みを通して、自分と登場人物を比べて考え、勇気についての見方を深める。	◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(【知識及び技能】(1)オ) ◎【知技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(【知識及び技能】(3)オ) 【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(【思考力、判断力、表現力等】B)ア ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けで具体的に想像している。(【思考力、判断力、表現力等】C)エ ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(【思考力、判断力、表現力等】C)オ 【態度】積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって物語のおもしろいところを紹介しようとしている。
2	6	「おすすぬ図書カード」を作ろう	△自ら作品を選び、自分で課題を決めて読書をする。 △「おすすぬ図書カード」作り、本を紹介し合い、さまざまな本を読む。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。⇒知技(1)イ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒知技(3)オ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。⇒思判表C(1)オ □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。⇒思判表C(1)カ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア □記録や報告などの文章を読み、文章の一部を利用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。⇒思判表C(2)ウ □学校図書館などを利用して、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。⇒思判表C(2)ウ ☆図書館指導：紹介カードや感想交流コーナーを活用して、読書の幅を広げ合う。	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(【知識及び技能】(1)イ) ◎【知技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(【知識及び技能】(3)オ) 【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(【思考力、判断力、表現力等】B)ア ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(【思考力、判断力、表現力等】C)オ 【態度】積極的に文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、学習の見通しをもって、「おすすぬ図書カード」で本を紹介し合うこととしている。
2	1	こそあど言葉	△指示語のはたらきを理解し、適切に使う。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒知技(1)カ	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(【知識及び技能】(1)カ) 【態度】進んで指示する語句の役割を理解し、学習課題に沿って、指示する語句を適切に使うこととしている。
2	5	はつとしたことを詩に書こう	■身近なことを、想像したことをもとに、表現を工夫して詩を書く。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア △様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。⇒思判表B(1)エ ■書くこととしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けると、⇒思判表B(1)ウ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ	◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(【知識及び技能】(1)ア) ◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文や文章の中で使っているとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(【知識及び技能】(1)オ) ◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】B)ウ 【態度】積極的に書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって詩を書くこととしている。
2	4	ことわざ・慣用句	△ことわざや慣用句の意味を知り、ふだんの生活の中で使うことができるように、カードを作る。 △長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。⇒知技(3)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ☆総合的な学習の時間・道徳：ことわざの成り立ちや意味について興味をもって調べたり、我が国の伝統や文化に目を向けたりする。	◎【知技】長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使っている。(【知識及び技能】(3)イ) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】B)ウ 【態度】積極的に、長い間使われてきたことわざや慣用句の意味を知り、学習の見通しをもってカードにまとめようとしている。
3	2	詩を楽しもう 夕日がせなかをおしてくる いちばんぼし	□音読したり、イメージを広げたりして、詩の世界を楽しむ。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。⇒知技(1)イ △文章全体の内容や構成の大意を意識しながら音読すること。⇒知技(1)ク △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒知技(3)オ □登場人物の気持ちや性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けで具体的に想像すること。⇒思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。⇒思判表C(1)オ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ ◇町の行事について調べ、図や写真、本など、資料を選んで発表する。	◎【知技】文章全体の構成や内容の大意を意識しながら音読している。(【知識及び技能】(1)ク) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けで具体的に想像している。(【思考力、判断力、表現力等】C)エ ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(【思考力、判断力、表現力等】C)オ 【態度】進んで、情景について具体的に想像し、学習の見通しをもって音読したりイメージを広げたりしようとしている。
3	7	三 調べて発表しよう (話す聞く)		

		町の行事について発表しよう	△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事項を選定すること。 ⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒◎思判表A(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ⇒思判表A(1)エ ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 ⇒思判表A(2)イ	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(〔知識及び技能〕(1)イ) ◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ) 【態度】進んで話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、学習の見通しをもって、資料を使って発表しようとしている。
3	2	文の組み立て	△主語と述語と修飾語との関係を理解して、文の組み立てを捉える。 △様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ) 【態度】進んで主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係について理解し、学習の見通しをもって、文の組み立てを見ようとしている。
3	2	漢字の広場 ⑤ 漢字の組み立て	△かんむり・あなどる漢字の構成についての知識を得、漢字を正しく読んだり書いたりする。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ	◎【知技】漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。(〔知識及び技能〕(3)ウ) 【態度】進んで、漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習の見通しをもって、漢字を正しく読んだり書いたりしようとしている。
	2 (書<2)	漢字の広場 ⑤ 2年生で学んだ漢字 ⑤	△絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ △相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) 【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くこととしている。
3	7 (書<2)	四 国や写真と文章を、むすびつけて読もう	□段落のつながりに気をつけながら写真と文章を結びつけて読み、考えたことをまとめる。	
		川をさかのぼる知恵	△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア △幅広く読書に関し、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ □段落相互の関係に着目しながら、考えと理由、事例の関係などを叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)ア □目的を意識して、中心となる語や文を見つけて内容を要約すること。 ⇒思判表C(1)ウ □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒◎思判表C(1)カ ■収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと。 ⇒思判表B(2)ア □記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ) ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ) 【態度】進んで、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって友達と感想を交流しようとしている。
3	1	十二支と月のよび名	△暮らしの中に今なお使われている昔からの言い方について知り、さまざまな言葉を探して感じたことを書く。 △長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使うこと。 ⇒◎知技(3)イ	◎【知技】長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使っている。(〔知識及び技能〕(3)イ) 【態度】積極的に、長い間使われてきた十二支や月の呼び名を知り、学習の見通しをもって、今の暮らしの中に残る昔からの言い方を見つげようとしている。
3	8 (書<8)	五 つたえたいことの中心を明らかにして書こう	■身近な生活の中から自分に合った題材を見つけ、段落相互の関係を考えながら、中心になる場面をはっきりさせて文章を書く。	
		強く心にのこっていることを	△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■書くこととすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)エ ■感想や意見を伝え合い、書くこととしたことが明確になっているかなどについて、文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒◎思判表B(1)オ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実や考えを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ) ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア) ◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ) ◎【思判表】「書くこと」において、書くこととしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ) 【態度】粘り強く間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして文や文章を整え、学習の見通しをもって、思いつに残っているできごとについて文章を書く。
3	2	漢字の広場 ⑥ 二つの漢字の組み合わせ	△漢字二つの言葉の構成について、問題を解きながら確認し、二つの漢字のつながり方考える。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、漢字二つの言葉の構成について考えようとしている。
	2 (書<2)	漢字の広場 ⑥ 2年生で学んだ漢字 ⑥	△絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ ■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)エ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) 【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くこととしている。
3	10 (書<2)	六 登場人物の気持ちのうつりかわりを読もう	□登場人物の心の動きを想像しながら、消えていたおにに手紙を書く。	

		おにたのぼうし	△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。⇒◎知技(1)才 △文章全体の内容や構成の大体を把握しながら音読すること。⇒知技(1)才 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒知技(3)才 ■書こうとするものの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ □場面面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。⇒思判表C(1)イ □場面面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化、情景について具体的に思い描くこと。⇒思判表C(1)エ □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。⇒◎思判表C(1)才 □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。⇒◎思判表C(1)カ ■家内状や札状を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。⇒思判表B(2)イ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ ☆道徳: 物語の読みをとおして、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことについての考え方を深める。	◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)才) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕C才) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ) 【態度】進んで文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見直しをもって、登場人物に宛てて手紙を書くようにしている。
3	2 (話す聞く1,書く1)	国語の学習 これまでから	◇一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、すすんで学習できるようにする。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒◎思判表A(1)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。⇒思判表A(2)イ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(〔知識及び技能〕(1)イ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aア) ◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) 【態度】積極的に伝え合うために必要な事柄を選び、今までの学習を生かして、1年間の国語の学習を振り返ったり次半への希望を話し合ったりしようとしている。

令和5年度 国語科 評価標準（４ 学年） 江戸川区立平井西小学校				
学期	時数	単元名	評価の観点	Bの評価標準
1	4 (話す聞く2)	言葉に親しもう		
1	2 (話す聞く2)	わたしは、だあれ	◇自分の知りたいことを明確にして、質問をする。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。 ⇒◎思判表A(1)エ ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 ⇒思判表A(2)イ	◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(【知識及び技能】(1)ア) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(【思考力、判断力、表現力等】Aエ) 【態度】積極的に必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、学習の見通しをもって、自分のカードに書いてある名前をあてようとしている。
	2	春のうた	□◇声に出して読んだり、其通点や相違点に気をつけて話したり聞いたりすることを楽しみ、国語学習への意欲をもつ。 □言葉の響きに気をつけながら、工夫して音読する。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。 ⇒◎知技(1)ウ △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	◎【知技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(【知識及び技能】(1)ウ) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。(【思考力、判断力、表現力等】C二) 【態度】進んで、登場人物の気持ちの変化や情景について具体的に想像し、学習の見通しをもって音読したりイメージを広げたりしようとしている。
1	10 (書く3)	一 場面の様子や、登場人物の気持ちを想像しながら読もう	□松井さんの行動や気持ちを考えながら読み、松井さんになって、「この日」のできごとを日記に書く。	
		白いぼうし	△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。 ⇒知技(1)ウ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア ■書くこととして明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒思判表C(1)カ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳:物語の読みをとおして、相手のことを思いやり、親切にしたり、真心をもって接することについて考える。	◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(【知識及び技能】(1)オ) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(【思考力、判断力、表現力等】Cイ) 【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。(【思考力、判断力、表現力等】Cエ) 【態度】進んで登場人物の気持ちや性格、情景について具体的に想像し、今までの学習を生かして、登場人物になったつもりで日記を書くこととしている。
1	4 (書く4)	びつたりの言葉、見つけよう	■心が動いたできごとを、短い文章で表現する。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字を書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ △様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(【知識及び技能】(1)ア) ◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。(【知識及び技能】(1)ウ) ◎【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(【思考力、判断力、表現力等】Bア) 【態度】進んで経験したことや想像したことなどから書くことを選び、学習の見通しをもって、心が動いたできごとを短い文章で表現しようとしている。
1	2	漢字の広場 ① 漢字の部首	△漢字の部首について知り、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てる。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ	◎【知技】漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。(【知識及び技能】(3)ウ) 【態度】進んで、漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習の見通しをもって、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てようとしている。
	2 (書く2)	漢字の広場 ① 三年生で学んだ漢字 ①	△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体の違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ ■書くこととして明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒◎思判表B(1)オ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)エ) 【思判表】「書くこと」において、書くこととして明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(【思考力、判断力、表現力等】Bオ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くこととしている。
1	16 (書く3)	二 けっかとかつろんのつながりをとらえよう		

1	2	ぞうの重さを量る	口家の重さを量るという問題をつかむ過程や解決する過程の考えの筋道を、叙述をおさえながら読む。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ □段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。⇒◎思判表C(1)ア □目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。⇒思判表C(1)ウ □記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。⇒思判表C(2)ア	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(【知識及び技能】(1)カ) ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(【知識及び技能】(2)ア) ◎【思判表】「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例などについて、叙述を基に捉えている。(【思考力、判断力、表現力等】Cア) 【態度】粘り強く、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて叙述を基に捉え、学習の見通しをもって、考える筋道をつかもうとしている。
1	10 (書く3)	花を見つける手がかり	□もしもしろはようは何を手がかりに花を見つけるかという問題を解明していく一つ一つの実験の結果とそこから引き出される結論、実験を繰り返して考える筋道などを、叙述をおさえながら読む。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒知技(3)オ ■書(内容の中心を明確)にし、内容のまとまりで段落をつつたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ □段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。⇒◎思判表C(1)ア □目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。⇒◎思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。⇒思判表C(1)カ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア □記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。⇒思判表C(2)ア	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(【知識及び技能】(1)カ) ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(【知識及び技能】(2)ア) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(【思考力、判断力、表現力等】Cア) ◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(【思考力、判断力、表現力等】Cウ) 【態度】粘り強く、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて叙述を基に捉え、学習の見通しをもって、結果と結論のつながりを捉えようとしている。
1	4	分類をもとに本を見つけよう	△地域の図書館へ行き、「日本十進分類法」を利用して本を探して読んだり、図書館の分類の仕方を探めたりする。 △「日本十進分類法」のしくみを知り、本を探すときに役立てる。 △「日本十進分類法」のしくみを知り、分類記号を手がかりに本を探して読む。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒◎知技(3)オ □目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。⇒◎思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。⇒思判表C(1)オ □記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。⇒思判表C(2)ア □学校図書館などを利用して、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。⇒思判表C(2)ウ ☆社会、理科、総合：調べ学習で本を探す	◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(【知識及び技能】(2)ア) ◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(【知識及び技能】(2)イ) ◎【知技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(【知識及び技能】(3)オ) ◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(【思考力、判断力、表現力等】Cウ) 【態度】進んで比較や分類の仕方を理解し、学習の見通しをもって、分類記号を手がかりに本を探して読もうとしている。
1	3 (話す聞く3)	メモの取り方をくふうして聞こう	◇相手の話の大切なことを落とさないように、工夫してメモを取りながら話を聞く。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。⇒知技(1)イ △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒知技(1)カ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるような話の構成を考えること。⇒思判表A(1)イ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。⇒◎思判表A(1)エ ◇説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。⇒思判表A(2)ア	◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(【知識及び技能】(2)イ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(【思考力、判断力、表現力等】Aエ) 【態度】進んで必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、学習の見通しをもって、大切なことを落とさないように聞こうとしている。
1	2	漢字辞典の引き方	△漢字辞典の引き方を理解し、活用する。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ △漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。⇒知技(3)ウ	◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(【知識及び技能】(2)イ) 【態度】積極的に辞書や事典の使い方を理解し、学習の見通しをもって漢字辞典を活用しようとしている。
1	10 (書く10)	三 伝わりやすい組み立てを考えて書こう	■リーフレットの特徴を生かした組み立てを考え、見学したことや調べたことを報告する。	

		リーフレットで知らせよう	△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。⇒◎知技(1)ウ △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒知技(1)カ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつつたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。⇒◎思判表B(1)エ ■書くこととしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ☆社会科：社会科見学の関連を図ることができる。	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方 Understanding して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。(【知識及び技能】(1)ウ) ◎【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつつたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bイ) ◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) ◎【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bエ) 【態度】積極的に、書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考え、学習の見通しをもってリーフレットの組み立てを考えようとしている。
1	4 (書く1)	短歌の世界	△短歌を声に出して読み、言葉のリズムにふれる。 △易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。⇒◎知技(3)ア △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒知技(3)オ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ ☆道徳：我が国や郷土の伝統と文化を大切にする。 ☆図書館活用：短歌への関心を広げる。	◎【知技】易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(【知識及び技能】(3)ア) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) 【態度】進んで易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどし、学習の見通しをもって、言葉のリズムを楽しんだり様子や気持ちを想像したりしようとしている。
1	2	漢字の広場 ② 漢字の音を表す部分	△形声文字における部首と音符について知り、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てる。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ △漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。⇒◎知技(3)ウ	◎【知技】漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。(【知識及び技能】(3)ウ) 【態度】進んで漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習課題に沿って、「音を表す部分」の漢字を覚えたり使ったりすることに役立てようとしている。
	2 (書く2)	漢字の広場 ③ 3年生で学んだ漢字 ②	△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)エ) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くこととしている。
1	10 (話す聞く2)	四 登場人物のせいとか、気持ちを想像して読もう	□場面や人物の様子を想像しながら、落語を音読したり、演じたりする。	
1		ぞろぞろ(落語)	△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒知技(3)オ □話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。⇒思判表A(1)ウ □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。⇒◎思判表C(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基いて、感想や考えをもつこと。⇒思判表C(1)オ ◇説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。⇒思判表A(2)ア ◇詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(【知識及び技能】(1)イ) 【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Aウ) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(【思考力、判断力、表現力等】Cイ) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。(【思考力、判断力、表現力等】Cエ) 【態度】進んで登場人物の気持ちの変化や性格、情景について具体的に想像し、学習の見通しをもって、落語を音読したり演じたりしようとしている。
2	1 (話す聞く1)	「夏の思い出」記者になろう	◇話し手がどんなことを伝えたいのかを考えながら、質問をする。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。⇒◎知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。⇒知技(1)イ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。⇒思判表A(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。⇒思判表A(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。⇒◎思判表A(1)エ ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。⇒思判表A(2)イ	◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(【知識及び技能】(1)ア) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(【思考力、判断力、表現力等】Aエ) 【態度】積極的に必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、学習の見通しをもって、相手の話を引き出す質問をしようとしている。
2	11 (話す聞く6、書く5)	五 写真などの図のよさを知り、活用しよう	◇写真は撮り方によって見る人に与える感じが異なることに気づき、写真や図を効果的に用いて表現する。	

2	6 (話す聞く 6)	写真をもとに話そう	◇伝えたいことははっきりさせて、理由や事例などをあげながら筋道を立てて話す。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ⇒◎思判表A(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒◎思判表A(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ⇒思判表A(1)エ ◇目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。 ⇒思判表A(1)オ ◇説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア ☆特別活動(朝の会など)：メモをもとにスピーチをする。	◎【知技】相手をを見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(〔知識及び技能〕(1)イ) ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aイ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ) 【態度】粘り強く、理由や事例などを挙げながら話の中心が明確になるように構成を考え、学習の見通しをもって、写真から読み取ったことを話そうとしている。
2	8 (書く5)	新聞を作ろう	■割り付けを工夫して、わかりやすい紙面の新聞を作る。 △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつつたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)エ ■書くこととしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ) ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア) ◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ) 【態度】粘り強く間違いを正したり文章を整えたりし、学習の見通しをもって新聞を作ろうとしている。
2	2	漢字の広場 ③ 送りがなのつけ方	△送り仮名は、漢字の読みや意味をはっきりさせるはたきをもつことを理解し、漢字を正しく使う。 △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ) 【態度】進んで送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使い、学習課題に沿って、漢字を正しく使おうとしている。
	1 (書く1)	都道府県名に用いる漢字	△都道府県名に用いる漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) 【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習課題に沿って、都道府県名を覚えたり書いたりしようとしている。
	2 (書く2)	漢字の広場 ③ 3年生で学んだ漢字 ③	△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。
2	9 (書く2)	六 場面の様子をくらべて読み、感想をまとめよう	□登場人物の思いを想像しながら、二つの場面を比べて読み、読んだ感想を友達に伝える。	
		一つの花	△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■書くこととしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒思判表C(1)カ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳:物語の読みを通して、生きることを喜び、生命を大切にする心をもつことについての考え方を深める。	◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ) ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア) 【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移りわりと結び付けて具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ 【態度】積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって、心に残った場面をもとに感想文を書こうとしている。

2	2 (書く2)	いろいろな手紙を書く	■手紙の書き方を知り、送る相手や伝える目的に合わせて手紙を書く。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。⇒知技(1)ウ △様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。⇒知技(1)エ ■行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。⇒思判表B(2)イ	◎【知技】丁寧な言葉を使っているとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。(〔知識及び技能〕(1)キ) ◎【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ) 【態度】粘り強く間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめ、学習の見通しをもって、送る相手や伝える目的に合わせて手紙を書くこととしている。
2	2	修飾語	△文の中での修飾語のはたらきを理解する。 △様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒知技(1)カ	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ) 【態度】進んで修飾と被修飾との関係について理解し、学習の見通しをもって、修飾語を見つたり、修飾語の種類を見分けたりしようとしている。
2	6 (書く6)	七 自由に想像を広げて書く	■不思議な言葉を作り、想像を広げて「ショートショート」を書く。	
		「ショートショート」を書く	△言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。⇒知技(1)ウ △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒知技(1)カ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。⇒思判表B(1)エ ■書くこととしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ) ◎【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) 【態度】積極的に、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりし、学習の見通しをもって「ショートショート」を書くこととしている。
2	1 (書く1)	「月」のつく言葉	△昔から「月」に対してさまざまな呼称があったことを知り、「月」に関する言葉を集める。 △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ △易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。⇒知技(3)ア ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。⇒思判表B(2)ア	◎【知技】易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(〔知識及び技能〕(3)ア) 【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) 【態度】進んで「月」に関わる言葉を音読するなどして言葉の響きやリズムに親しみ、学習の見通しをもって「月」に関する言葉を集めようとしている。
2	8 (書く2)	一 場面のうつかりかわりと結びつけ、登場人物の変化を読む	□人物の気持ちや場面が移り変わるおもしろさを読み、読書の世界を豊かにする。	
		どんきつね	△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。⇒思判表C(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。⇒思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。⇒思判表C(1)カ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ ☆道徳:物語の読みをとおして、生命の尊さを感じ取り、生命あるものについての見方を深める。	◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移りわりと結び付けて具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ) 【態度】積極的に、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移りわりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって物語のポスターを作ろうとしている。
2	5	「読書発表会」をしよう	△紹介したい本を何冊か選び、「読書発表会」で発表する。 △紹介したい本を何冊か選び、「読書発表会」をし、読書の幅を広げる。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒知技(1)カ △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。⇒知技(1)ク △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒知技(3)オ □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移りわりと結び付けて具体的に想像すること。⇒思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。⇒思判表C(1)カ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ □学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。⇒思判表C(2)ウ ☆図書館指導:紹介カードや感想交流コーナーを活用して、読書の幅を広げ合う。	◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ) ◎【知技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(〔知識及び技能〕(3)オ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ) 【態度】積極的に文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、学習の見通しをもって、「読書発表会」で本を紹介しようとしている。

2	4 (話す聞く 1)	言葉が表す感じ、言葉から受ける感じ	△言葉や音が表すイメージや、イメージに即した言葉を考えていることによって、言葉の特性について考える。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ⇒◎思判表A(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ⇒思判表A(1)エ ◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。 ⇒思判表A(2)ウ	◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア) 【思判表】「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aイ) 【態度】進んで、言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付こうとし、学習課題に沿って、言葉がもつイメージについて考えようとしている。
2	8 (話す聞く 8)	二 目的や進め方をたしかめて話し合おう	◇司会者や発言者などの役割を果たしながら、話し合いの進行に合わせ、互いの考えをよく伝え合って話し合う。	
		新スポーツを考えよう	△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ⇒思判表A(1)エ ◇目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。 ⇒◎思判表A(1)オ ◇グループや学級全体での話し合いなど、考えを伝え合う活動。 ⇒思判表A(2)ウ ☆総合的な学習の時間・特別活動など：司会者や提案者・記録者などの役割を知り、分担して話し合いを進める。合意形成の仕方を学ぶことに生かせる。	◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア) ◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ) 【態度】積極的に目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たし、学習の見通しをもってクラスで話し合おうとしている。
2	2	漢字の広場 ④ いろいろな意味を表す漢字	△一つの漢字には、複数の意味がある場合が多いことを理解する。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習課題に沿って、漢字がもつ複数の意味について考えようとしている。
	2 (書く2)	漢字の広場 ④ 3年生で学んだ漢字 ④	△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ ■書くこととしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けけること。 ⇒◎思判表B(1)オ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) 【思判表】「書くこと」において、書くこととしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けける。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くこととしている。
2	9 (書く2)	三 大事な言葉や文に気をつけて要約しよう	□ウミガメの産卵や成長を研究する名古屋港水族館の取り組みを時系列に沿って読み、興味をもった点から整理して文章を要約する。	
		ウミガメの命をつなぐ	△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■書くこととしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けけること。 ⇒思判表B(1)オ □段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)ア □目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。 ⇒◎思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒思判表C(1)カ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア □記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア	◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア) ◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ) 【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ) ◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ) 【態度】積極的に、目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約し、学習の見通しをもって、本教材の紹介文を書くこととしている。
2	2	二つのことがらをつなぐ	△二つの事柄をつなぐとき、使う言葉によって内容が大きく変わることを理解し、接続語のはたらきを意識して、正しく使い分ける。 △様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ) 【態度】進んで接続する語句の役割について理解し、学習の見通しをもつて、接続語のはたらきを意識して正しく使い分けようとしている。
2	6 (書く6)	四 調べたことをわかりやすく書こう	■図や写真などの資料を活用し、紙面を工夫して図鑑を作る。	

		「不思議ずかん」を作ろう	△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。⇒知技(1)ウ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつつたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。⇒思判表B(1)エ ■書くこととしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ) ◎【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) ◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ) 【態度】積極的に、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって「不思議ずかん」を作ろうとしている。
2	4 (書く1)	故事成語	△故事成語の意味を知り、友達に紹介するためのカードを作る。 △長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使うこと。⇒知技(3)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ☆絶的な学習の時間・道徳：ことわざの成り立ちや意味について興味をもって調べたり、我が国の伝統や文化に目を向けたりする。	◎【知技】長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使っている。(〔知識及び技能〕(3)イ) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) 【態度】積極的に、長い間使われてきた故事成語の意味を知り、学習の見通しをもってカードにまとめようとしている。
3	2	詩を楽しむ いろいろな詩 おおきな木 とびばこ たんだん	□さまざまな形の作品を読みながら、詩の世界を楽しむ。 △文章全体の内容や構成の全体を意識しながら音読すること。⇒知技(1)ク △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒知技(3)オ □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。⇒思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。⇒思判表C(1)カ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ	◎【知技】文章全体の構成や内容の全体を意識しながら音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ) 【態度】進んで、詩を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって発表し合おうとしている。
3	2	漢字の広場 ⑤ 熟語でのき方	△二つの漢字を組み合わせた熟語の構成について、問題を解きながら確認し、二つの漢字のつながり方を考える。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、二つの漢字を組み合わせた熟語の構成について考えようとしている。
	2 (書く2)	漢字の広場 ⑤ 3年生で学んだ漢字 ⑤	△総を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) 【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くこととしている。
3	15 (話す聞く9, 書く1)	五 自分の経験と結びつけて考えよう	◇「便利だな」と思うものを思い浮かべ、その理由から自分にとっての「便利」とはどういうことか話そう。	
3	1 (話す聞く1)	身のまわりの「便利」なものを考えよう	◇身のまわりの道具や設備などから「便利」なものを選び、使いやすくなる工夫を考えて話し合う。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒思判表A(1)ア ◇目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。⇒思判表A(1)オ ◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。⇒思判表A(2)ウ	◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aア) 【態度】進んで、目的を意識して日常生活の中から集めた材料を比較したり分類したりし、学習の見通しをもって、クラス全体やグループで話し合おうとしている。
	6 (書く1)	「便利」ということ	□「便利」とはどういうことかを考えながら読み、自分の経験と照らし合わせながら考えをまとめる。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒知技(3)オ ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつつたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■書くこととしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ □段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。⇒思判表C(1)ア □目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。⇒思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。⇒思判表C(1)カ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表(2)ウ □記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。⇒思判表C(2)ア □学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。⇒思判表C(2)ウ ☆道徳：本文の読みを通して「便利」について考え、相手のことを思いやり、助け合うことへの見方を深める。	◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア) ◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ) ◎【知技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(〔知識及び技能〕(3)オ) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ) 【態度】積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって、「便利」について考えたことを文章にまとめようとしている。

3	8 (話す聞く8)	調べてわかったことを発表しよう	◇調べたことについて、写真や図、表やグラフなどを使って説明したり、話の中心に気をつけて聞いたりする。 △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 →知技(1)キ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 →知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 →◎知技(2)イ ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 →思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 →思判表A(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 →◎思判表A(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 →思判表A(1)エ ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 →思判表A(2)イ ☆社会科・理科・総合的な学習の時間など：調べたことや観察したことをポスターを使って効果的に発表する。	◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(【知識及び技能】(2)イ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Aウ) 【態度】積極的に、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、見通しをもって調べたことを発表しようとしている。
3	2	点(し)を打つところ	△読点のはたらきを理解して、正しく使い分ける。 △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 →◎知技(1)ウ △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 →知技(1)カ	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。(【知識及び技能】(1)ウ) 【態度】進んで句読点のはたらきを理解し、学習課題に沿って、文や文章の中で適切に使うようとしている。
3	9 (書く9)	六 伝えたいことをはっきりさせて書こう	■喉子(のど)がわかるように、よりよい表現を選んで書く。	
		自分の成長をふり返って	△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 →◎知技(1)ウ △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 →◎知技(1)カ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 →思判表B(1)ア ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 →思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 →◎思判表B(1)ウ ■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。 →◎思判表B(1)エ ■書くこととしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 →◎思判表B(1)オ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 →思判表B(2)ア	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。(【知識及び技能】(1)ウ) ◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(【知識及び技能】(1)カ) ◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) ◎【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bエ) ◎【思判表】「書くこと」において、書くこととしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(【思考力、判断力、表現力等】Bオ) 【態度】積極的に、書くこととしたことが明確になっているかなど文章に対する感想や意見を伝え合い、学習の見通しをもって、よりよい表現を選んで文章を書くようとしている。
3	1 (書く1)	雪	△「雪」を扱った言語表現を集める。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 →知技(2)ア △長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。 →◎知技(3)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 →◎思判表B(1)ウ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 →思判表B(2)ア	◎【知技】長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使っている。(【知識及び技能】(3)イ) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) 【態度】進んで、長い間使われてきた「雪」に関わる言葉の意味を知ろうとし、学習の見通しをもって「雪」に関する詩歌や言葉を集めようとしている。
3	2	漢字の広場 ⑥ 同じ読み方の漢字の使い分け	△異字同訓や同音異義語の使い分けについて意識をもって、漢字を読んだり書いたりする。 △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 →◎知技(1)ウ △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 →知技(1)エ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 →知技(2)イ	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。(【知識及び技能】(1)ウ) 【態度】進んで同じ読み方の漢字の使い分けを理解し、学習課題に沿って、文や文章の中で正しく使うようとしている。
	2 (書く2)	漢字の広場 ⑥ 3年生で学んだ漢字 ⑥	△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 →◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 →知技(1)キ ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 →◎思判表B(1)イ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 →思判表B(2)ウ	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)エ) 【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bイ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、お話の一場面を書こうとしている。
3	8 (書く2)	七 場面のうつり変わりと、登場人物の気持ちの変化を認もう	口登場人物の考え方の違いや、その移り変わりを考えながら読み、気に入った場面を物語のように書きかえる。	

		木庵うるし（人形げき）	△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。⇒◎【知技】(1)イ △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。⇒知技(1)ク △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒知技(3)オ ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■書くことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。⇒思判表C(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。⇒思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。⇒◎思判表C(1)カ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ ☆道徳:物語の読みをとおして、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことについての考え方を深める。	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ） 【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ） ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ） ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ） 【態度】積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって、脚本を物語のように書きかえようとしている。
3	2 (話す聞く1,書く1)	国語の学習 これまで これから	◇一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、すすんで学習できるようにする。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒思判表A(1)ア ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。⇒◎思判表A(1)ウ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ◇説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。⇒思判表A(2)ア ■記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。⇒思判表B(2)ア	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ） ◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） 【態度】進んで話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、今までの学習を生かして、1年間の国語の学習を振り返ったり次々への希望を話したりしようとしている。

令和5年度 国語科 評価規準（５学年）江戸川区立平井西小学校				
学期	時数	単元名	評価の観点	Bの評価規準
1	－	五年生で学ぶこと		
1	4 (話す聞く2)	言葉で伝え合おう		
1	2 (話す聞く2)	わたしは木	◇友達や言葉や動作を受け止めてつなげる。 △言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ⇒思判表A(1)ア ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 ⇒◎思判表A(1)エ ◇意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア	◎【知技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。（〔思考力、判断力、表現力等〕A＝） 【態度】進んで目的や意図に応じて、話題を決め、学習の見通しをもって必要な情報を集め、友達や言葉や動作を受けとめようとしている。
1	1	水平線	□目や耳で捉えた世界の感じ方を想像しながら詩を読む。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ⇒◎知技(1)ク △文章を音読したり朗読したりすること。 ⇒◎知技(1)ケ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 ⇒思判表C(1)エ	◎【知技】比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【知技】文章を音読したり朗読したりしている。（〔知識及び技能〕(1)ケ） ◎【思判表】「読むこと」において、詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕C＝）
	1	うぐいす	□文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒C思判表(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒C思判表(1)カ □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ⇒C思判表(2)イ	【態度】進んで詩の目や耳で捉えた世界の感じ方を想像し、学習の見通しをもって言葉の響きに気をつけながら、音読しようとしている。
1	8 (書く2)	ーくふうされた表現をもとに、登場人物のしんじょうをそうぞうして読もう	□登場人物の心情の移り変わりを考えながら読む。	
		いつか、大切なところ	△比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ⇒◎知技(1)ク △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △文章を音読したり朗読したりすること。 ⇒知技(1)ケ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりすると、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ	◎【知技】比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ） ◎【思判表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕C＝） 【態度】進んで物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって登場人物の心情の移り変わりを考えながら読もうとしている。
1	4 (書く1)	新聞を読もう	□新聞の仕組みを知り、それをもとに同じできごとを扱った新聞記事を読み比べたり、内容や見出し、写真などについて気づいたことを発表し合ったりする。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりすると、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ □事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 ⇒◎思判表C(1)ア □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 ⇒思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ	◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） ◎【思判表】「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cア） 【態度】進んで新聞の仕組みを知り、今までの学習を生かして新聞記事を読み比べたり、内容や見出し、写真などについて考えたことを話し合おうとしている。
1	3 (書く3)	「情報ノート」を作ろう	■興味をもったり、疑問に思ったりしたことについて、情報を集めて「情報ノート」を作る。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりすると、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒B思判表(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)エ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	◎【知技】原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア ◎【思判表】目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア 【態度】積極的に文章の種類とその特徴について理解し、学習課題に沿って感じたり考えたりしたことについて情報を集めて「情報ノート」を作ろうとしている。
1	1	漢字の広場 ① 漢字学習ノート	△新しく学ぶ漢字や既習の漢字を取り立て、音訓・意味・使い方などを調べて漢字学習ノートを作る。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒知技(3)ウ	◎【知技】文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)＝） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって「漢字学習ノート」を作ろうとしている。
	1 (書く1)	漢字の広場 ① 四年生で学んだ漢字 ①	△絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(2)ア	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)＝） ◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書くとしている。

1	9 (書く2)	二 事例と解説をもとに、言葉と事実との関係を考えよう	□言葉が人の感じ方や行動に影響を与える事例とその理由を解説した文章を読み、言葉の働きにに対する見方・考え方を深める。	
1	1	人とねずみの「はい、チーズ！」	□絵と解説文を手がかりに、人とねずみが「はい、チーズ！」という言葉で笑顔になるわけを読み、同じ言葉が異なる働きをすることに気づく。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ □事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。⇒思判表C(1)ア □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。⇒◎思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめること。⇒思判表C(1)オ □説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。⇒思判表C(2)ア	◎【知技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア) ◎【思判表】「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ) 【態度】積極的に原因と結果など情報と情報との関係について理解し、学習の見通しをもって同じ言葉が異なる働きをすることに気づき考えたことを文章にまとめようとしている。
1	8 (書く2)	言葉と事実	□取り上げられた言語表現の事例とその影響、影響を与えた理由をおさえて読み、自身の言語生活も振り返りながら、事実をとらえる際言葉の働きについて考えを深める。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒知技(1)カ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ □事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。⇒◎思判表C(1)ア □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。⇒思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめること。⇒思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。⇒思判表C(1)カ	◎【知技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア) ◎【思判表】「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ) 【態度】粘り強く論の進め方について考え、学習の見通しをもって事例と解説に気をつけて文章を読み、言葉と事実の関係について考えようとしている。
1	2	話し言葉と書き言葉	△話し言葉と書き言葉の特徴の違いについて理解したり、場に応じた言葉の選び方の違いや表現の仕方の違いについて理解したりする。 △話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。⇒◎知技(1)イ	◎【知技】話し言葉と書き言葉との違いに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)イ) 【態度】積極的に話し言葉と書き言葉の違いを理解し、学習課題に沿って自身の言語生活を振り返って考えようとしている。
1	9 (話す聞く4、書く5)	三 伝わるように構成を考えよう	◇■伝えたい相手や目的、内容を考えて、構成を工夫して話したり書いたりする。	
1	4 (話す聞く4)	「町じまん」をすいせんしよう	◇推薦するもののよさが伝わるように説明したり、納得できるかどうかに留意して聞いたりする。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒知技(1)カ △日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。⇒知技(1)キ △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ	◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ) 【態度】積極的に相手や目的、内容に合わせた構成を考え、今までの学習を生かして推薦するもののよさが伝わるように説明したり、納得できるかどうかに留意して聞いたりしようとしている。
1	5 (書く5)	ポスターを作ろう	■構成や表現を工夫して、ポスターを作る。 △話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。⇒◎知技(1)イ △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。⇒◎思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けのこと。⇒思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	◎【知技】話し言葉と書き言葉との違いに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)イ) ◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思判表】「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ) ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ) 【態度】粘り強くポスター全体の構成や展開を考え、学習の見通しをもって構成や表現を工夫して、ポスターを作ろうとしている。
1	3 (書く1)	漢文に親しむ	△現代の言葉とは異なる漢文のリズムや響きを読み味わう。 △文章を音読したり朗読したりすること。⇒◎知技(1)ケ △親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。⇒◎知技(3)ア △古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のもの見方や感じ方を知ること。⇒知技(3)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ☆図書館指導：漢文作品を読み広げる。 ☆道徳：漢文のリズムや響きを味わい、外国の文化への関心を高める。	◎【知技】文章を音読している。(〔知識及び技能〕(1)ケ) ◎【知技】親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(〔知識及び技能〕(3)ア) 【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) 【態度】積極的に現代の言葉とは異なる漢文のリズムや響きを理解し、今までの学習を生かして漢文を読み味わいながら音読しようとしている。
1	2	敬語	△敬語のはたらきと種類を理解して、正しく使う。 △日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。⇒◎知技(1)キ	◎【知技】日常よく使われる敬語を理解し、使い慣れている。(〔知識及び技能〕(1)キ) 【態度】積極的に日常よく使われる敬語を理解し、今までの学習を生かして敬語を使う場面や使い方に関心を持ち正しく使おうとしている。

1	1	漢字の広場 ② 複合語	△複合語の構成や変化、由来などについて理解を深める。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △思考に関わる語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(【知識及び技能】(1)オ) 【態度】積極的に複合語の組み合わせ方について理解し、学習の見通しをもって複合語について、言葉集めをしようとしている。
	1 (書く1)	漢字の広場 ② 四年生で学んだ漢字 ②	△絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)エ) ◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bイ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書くようとしている。
2	2 (話す聞く2)	知りたいことを決めて、話を聞こう	◇聞きたいことを明確にして、話を聞く。 △言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 ⇒知識・技能(1)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ △目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ⇒思判表A(1)ア △話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 ⇒◎思判表A(1)エ ◇インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 ⇒思判表A(2)イ	◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(【知識及び技能】(2)イ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(【思考力、判断力、表現力等】Aエ) 【態度】粘り強く聞きたいことを明確にして、学習の見通しをもって、話を聞こうとしている(④)。
2	2	詩を味わおう 素朴な琴 鳴く虫 山のあなた	□さまざまな音の作品を読みながら、詩の世界を楽しむ。 △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ⇒◎知技(1)ク △文章を音読したり朗読したりすること。 ⇒知技(1)ケ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめること。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	◎【知技】比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(【知識及び技能】(1)ク) ◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(【知識及び技能】(3)ウ) ◎【思判表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(【思考力、判断力、表現力等】Cエ) 【態度】進んで昔の作品を読み、学習の見通しをもって詩の世界を楽しもうとしている。
2	8 (書く2)	四 物語の全体像をとらえ、やま場の場面を見つけて読もう	□残雪に対する大造じいさんの心情の変化を読み、「やま場」の場面を見つれたり、大造じいさんの行動に対しての考えを書いたりする。	
		大造じいさんとがん	△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ⇒知技(1)イ △思考に関わる語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ □目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア □目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ ■人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)エ ■文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめること。 ⇒思判表C(1)オ ■文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。(【知識及び技能】(1)オ) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(【思考力、判断力、表現力等】Cエ) 【態度】進んで残雪に対する大造じいさんの心情の変化を読み、学習の見通しをもって「やま場」の場面を見つれたり、大造じいさんの行動について考えたことを文章にまとめようとしている。
2	1 (書く1)	鳥	△「鳥」を扱った言語表現を集める。 △思考に関わる語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒知技(3)ウ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(【知識及び技能】(1)オ) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(【思考力、判断力、表現力等】Bア) 【態度】力強く「鳥」を扱った言語表現を集めようとし、学習の見通しをもって感じたり考えたりしたことについて文章に書こうとしている。
2	4 (書く4)	俳句を作ろう	■季節や自分の気持ちや様子を表す言葉を選び、俳句を作る。 △思考に関わる語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ⇒知技(1)ク ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つげること。 ⇒思判表B(1)カ ■短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)イ	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(【知識及び技能】(1)オ) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(【思考力、判断力、表現力等】Bア) 【態度】進んで語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見通しをもって俳句をつくろうとしている。
2	6 (話す聞く6)	五 考えを広げるために、立場を決めて話し合おう	◇立場を決めて話し合い、さまざまな意見を聞いて自分の考えを広げる。	

		A I とのくらし	△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。 ⇒知技(1)キ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ	◎【知技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア) ◎【思判表】互「話しこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ) 【態度】粘り強く立場を決めて話し合い、学習の見通しをもってさまざまな意見を聞いて自分の考えを広げようとしている。
2	1	漢字の広場 ③ 熟語の構成	△二字熟語の構成や由来について理解を深める。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(〔知識及び技能〕(1)オ) 【態度】粘り強く二字熟語の構成や由来について理解を深め、学習の見通しをもって二字熟語の構成をもとに意味を考えたり、辞典を使って調べたりしようとしている。
	1 (書く1)	漢字の広場 ③ 四年生で学んだ漢字 ③	△絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △語句の由来などに興味をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒知技(3)ウ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⇒知技B(1)オ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) ◎【知技】語句の由来などに興味をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(〔知識及び技能〕(3)ウ) ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書くようとしている。
2	10 (書く5)	一 多様な情報を読み、根拠となる資料にもとづいて、考えを深めよう	■口多様な文章や資料を比べながら読み、自分の考えを深め、その考えが伝わるように根拠を明確にして意見文を書く。	
2		世界遺産 白神山地からの提言―意見文を書こう	△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ⇒知技(1)イ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒知技B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒知技B(1)エ ■目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 ⇒知技B(1)ウ ■文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒知技B(1)オ	◎【知技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ) 【態度】積極的に多様な文章や資料を比べながら読み、学習課題に沿って自分の考えを深め、その考えが伝わるように根拠を明確にして意見文を書くようとしている。
2	4 (書く1)	「古典」を楽しむ	△昔から読み継がれている物語を読み、感想を書く。 △視みやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 ⇒知技(3)ア △古典について解説した文章を読んだら作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。 ⇒知技(3)イ △語句の由来などに興味をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒知技(3)ウ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒知技B(1)ウ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ☆総合的な学習の時間・道徳：昔の人の思いや考え方にふれ、今と昔の違いや共通点について調べたり、関心を高めたりする。	◎【知技】古典について解説した文章を読んだら作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。(〔知識及び技能〕(3)イ) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) 【態度】進んで昔から読み継がれている物語を読み、学習の見通しをもって「古典」を読んだ感想をまとめようとしている。
2	2	かなづかいで気をつけること	△仮名遣いのきまりを理解して、文を正しく書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ	◎【知技】文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けられているとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。(〔知識及び技能〕(1)ウ) 【態度】積極的に仮名遣いのきまりを理解し、学習課題に沿って文を正しく書くようとしている。
2	1	漢字の広場 ④ 漢字の成り立ち	△漢字の成り立ちについて関心を深める。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △語句の由来などに興味をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒知技(3)ウ	◎【知技】語句の由来などに興味をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(〔知識及び技能〕(3)ウ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって漢字の成り立ちについて関心を深め、漢字事典で調べようとしている。
2	1 (書く1)	漢字の広場 ④ 四年生で学んだ漢字 ④	△絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⇒知技B(1)オ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(2)ア	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書くようとしている。

2	6 (書く1)	二 表現の効果を考えながら、登場人物の関わりをとらえて読もう	□表現の工夫や登場人物の関わりをとおして、『雪わたり』の魅力を紹介する文章を書く。	
2	5 (書く2)	「図書すいせん会」をしよう	△比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ⇒◎知技(1)ク △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △文章を音読したり朗読したりすること。 ⇒知技(1)ケ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒◎思判表C(1)カ □印象に残った作品を取り上げ、推薦の仕方を工夫して、「図書すいせん会」を開く。 □推薦の仕方を工夫して、「図書すいせん会」を開き、読書の幅を広げ合う。 △日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くこと。 ⇒◎知技(3)オ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)エ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒◎思判表C(1)カ ■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。 ⇒思判表B(2)フ □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ □学校図書館などを利用して、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。 ⇒思判表C(2)ウ ☆図書館指導：紹介カードや感想交流コーナーを活用して、読書の幅を広げ合う。	◎【知技】比喩などの表現の工夫に気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ク) ◎【思判表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕C二) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んでもまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ) 【態度】進んで物語の表現の工夫や登場人物の関わりを読み、学習の見通しをもって『雪わたり』の魅力を紹介する文章を書くこととしている。 ◎【知技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付いている。(〔知識及び技能〕(3)オ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んでもまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ) 【態度】積極的に推薦の仕方を工夫して、学習課題に沿って「図書すいせん会」を開き、読書の幅を広げ合おうとしている。
2	3 (話す聞く1)	言葉で伝える、心を伝える	△相手の立場を意識しながら、自分の気持ちを言葉で伝える。 △言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア ◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 ⇒◎思判表A(1)エ ◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめること。 ⇒◎思判表A(1)オ ◇それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。 ⇒思判表A(2)ウ	◎【知技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア) ◎【知技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ) 【態度】積極的に相手の立場を意識し、今までの学習を生かして相手の立場を意識しながら、自分の気持ちを言葉で伝えようとしている。
	1	詩を味わおう または 雪	□さまざまな昔の作品を読みながら、詩の世界を味わう。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ⇒◎知技(1)ク △文章を音読したり朗読したりすること。 ⇒知技(1)ケ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く。共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	◎【知技】比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ク) ◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く。共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(〔知識及び技能〕(3)ウ) ◎【思判表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕C二) 【態度】進んで昔の作品を読み、学習の見通しをもって詩の世界を味わおうとしている。
3	6 (書く6)	三 事実と意見を結びつけて書こう	■身のまわりの生活から課題を見つけ、事実と意見を結びつけて提案文を書く。	
		提案文を書く	△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ⇒知技(1)イ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒◎思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしてなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【知技】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ) ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bカ) 【態度】積極的に身のまわりの生活から課題を見つけ、学習課題に沿って事実と意見を結びつけて提案文を書くこととしている。

3	2	和語・漢語・外来語	△和語・漢語・外来語の由来と特質を理解し、それぞれから受ける印象のちがいにについて考えることができる。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く。共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。⇒知技(3)ウ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。⇒思判表A(1)ア ◇それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。⇒思判表A(2)ウ	◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(【知識及び技能】(3)ウ) 【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。(【思考力、判断力、表現力等】Aア) 【態度】積極的に和語・漢語・外来語の由来と特質を理解し、今までの学習を生かしてそれぞれから受ける印象のちがいにについて考えようとしている。
3	1	漢字の広場 ⑤ 同じ音の漢字	△同音の漢字、同音異義語について理解する。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く。共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。⇒知技(3)ウ	◎【知技】文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けられているとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。(【知識及び技能】(1)ウ) 【態度】積極的に同音の漢字、同音異義語について理解し、学習課題に沿って同じ音の漢字を正しく使い分けようとしている。
	1 (書く1)	漢字の広場 ⑤ 四年生で学んだ漢字 ⑤	△絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒思判表B(1)イ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)エ) ◎【思判表】筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒思判表B(1)イ 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書くこととしている。
3	10 (話す聞く5, 書く1)	四 「まんがの方法」とその効果について、自分の考えをもとう	□◇文章を読んでまんがの表現方法やおもしろさを理解し、まんがに対する自らの考えの変化を文章に表す。	
3	5 (書く1)	まんがの方法	△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりすると、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ □事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえて、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。⇒思判表C(1)ア □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。⇒思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめること。⇒思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを上げること。⇒思判表C(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア □説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめる活動。⇒思判表C(2)ア	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(【知識及び技能】(1)オ) 【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(【思考力、判断力、表現力等】Cウ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめている。(【思考力、判断力、表現力等】Cオ) 【態度】粘り強くまんがの表現方法やおもしろさを理解し、学習の見通しをもってまんがに対する自らの考えの変化を文章に表そうとしている。
3	5 (話す聞く5)	ひみつを調べて発表しよう	◇資料を生かした構成を考えて、効果的に発表する。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ △文や文章の中で語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒知技(1)カ △日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。⇒知技(1)キ △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ	◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(【知識及び技能】(2)イ) 【態度】進んで資料を生かした構成を考えて、今までの学習を生かして効果的に発表しようとしている。
3	1	漢字の広場 ⑥ 送り仮名のきまり	△送り仮名について理解を深め、正しく書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ	◎【知技】文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けられているとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。(【知識及び技能】(1)ウ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって送り仮名について理解を深め、正しく書くこととしている。
3	1 (書く1)	漢字の広場 ⑥ 四年生で学んだ漢字 ⑥	△絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。⇒思判表B(1)オ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(2)ア	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)エ) ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bオ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書くこととしている。
3	5 (書く1)	五 みずぐささがし求めた筆者について、考えをまとめよう	□筆者の心情や考えを読み、自分の考えをまとめる。	

3	2 (話す聞く 1・書く1)	みずさしがしの旅——みんなちがって、みんないい 国語の学習 これまで これから	△文の中での語句や係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句の関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けけること。 ⇒思判表B(1)カ ◇一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、計画的に学習できるようにする。 △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒知技(1)カ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ⇒◎思判表A(1)ア (◇話し合って考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。 ⇒3・4年 思判表A(2)イ)	◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ) 【態度】積極的にノンフィクション作品の筆者の心情や考えについて理解し、学習課題に沿って自分の考えをまとめようとしている。 【知技】話の構成や展開、話の種類とその特徴について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aア) 【態度】積極的に一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、今までの学習を生かして計画的に学習しようとしている。
---	----------------------	--	---	--

令和5年度 国語科 評価標準（6 学年）江戸川区立平井西小学校				
学期	時数	単元名	評価の観点	Bの評価標準
1	－	六年生で学ぶこと		
1	－	言葉で伝え合おう	－	
1	2 (話す聞く2)	自分に質問してみよう	◇自分のことを客観的に捉えて話す。 △言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。⇒◎思判表A(1)ア ◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えると。⇒◎思判表A(1)イ ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。⇒◎思判表A(1)ウ ◇意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。 ⇒◎思判表A(2)ア	◎【知技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。((【知識及び技能】)(1)ア) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。((【思考力、判断力、表現力等】)Aア) 【態度】積極的に自分のことを客観的に捉え、今までの学習を生かして質問について考えようとしている。
1	1	風景 純銀もざいく	□繰り返しの響きや意味に気をつけて音読し、言葉の意味を考える。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。⇒知技(1)ウ △文章を音読したり朗読したりすること。⇒◎知技(1)ケ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。⇒◎思判表C(1)カ □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。⇒◎思判表C(2)イ	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。((【知識及び技能】)(1)オ) ◎【知技】文章を音読したり朗読したりしている。((【知識及び技能】)(1)ケ) ◎【思判表】人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。⇒◎思判表C(1)エ 【態度】進んで言葉の意味を考え、繰り返しの響きや意味に気をつけて音読しようとしている。
	2	あの坂をのぼれば	□言葉の意味に気をつけて音読し、言葉の意味を考える。 △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ △文章を音読したり朗読したりすること。⇒知技(1)ケ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。⇒◎思判表C(1)カ □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。⇒◎思判表C(2)イ	◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。((【知識及び技能】)(1)カ) ◎【思判表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。((【思考力、判断力、表現力等】)Cエ) 【態度】進んで言葉の意味を考え、学習の見通しをもって音読しようとしている。
1	3 (書く3)	図に表して考えよう	■考えや意見を図に書いてまとめる。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒◎思判表B(2)ア ☆全ての学習：ノート作りに活用できる。	◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。((【知識及び技能】)(2)イ) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。((【思考力、判断力、表現力等】)Bア) 【態度】粘り強く伝えたいことを明確にしようにし、学習の見通しをもって考えや意見を図に書いてまとめようとしている。
1	11 (書く6)	一 筆者のものの見方や感じ方などにふれ、随筆に親しもう	△■自分に重ねながら随筆を読み、それを参考に、自分のものの見方や考え方を深め、経験したことなどを表現を工夫して書く。	
1	3 (書く1)	春はあけぼの	△『枕草子』の文章にふれ、リズムや響きを味わいながら音読し、『枕草子』ふうの文章を書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ △親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。⇒◎知技(3)ア △古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。⇒知技(3)イ	◎【知技】親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((【知識及び技能】)(3)ア) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。((【思考力、判断力、表現力等】)Bア) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。((【思考力、判断力、表現力等】)Cカ) 【態度】進んで語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見通しをもって『枕草子』ふうの文章を書くようとしている。
1	3	薫風「迷う」	□筆者のものの見方や感じ方などに触れ、「随筆に親しむ」。 △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ □事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。⇒◎思判表C(1)ア □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を整理したり、他の学習活動に活用すること。⇒◎思判表C(1)カ	◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。((【知識及び技能】)(1)カ) ◎【思判表】「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。((【思考力、判断力、表現力等】)Cア) ◎【思判表】「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。((【思考力、判断力、表現力等】)Cウ) 【態度】積極的に随筆の特徴について理解し、今までの学習を生かして、者のものの見方や感じ方などに触れ、随筆に親しもうとしている。

			見付けたり、論の進め方について考えたりすること。⇒◎思判表B(1)ウ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。⇒思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。⇒思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。⇒思判表C(1)カ	
1	5 (書く5)	随筆を書く	■心を動かされたできごとから書く事柄を決め、随筆を書く。 △話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。⇒知技(1)イ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒知・技能(1)カ △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。⇒◎知技(1)ク ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。⇒思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ ■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。⇒思判表B(2)ウ ☆総合的な学習の時間など：卒業文集を作成するときに活用できる。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((知識及び技能)(1)オ) ◎【知技】比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。((知識及び技能)(1)ク) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。((思考力、判断力、表現力等)Bア) ◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。((思考力、判断力、表現力等)Bイ) 【態度】積極的に随筆の特徴について理解し、学習課題に沿って心を動かされたできごとから書く事柄を決め、随筆を書くとしている。
1	1	漢字の広場 ① 三字以上の熟語の構成	△三字以上の熟語の構成について理解を深め、由来に関心をもつ。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((知識及び技能)(1)オ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって熟語の由来に関心をもち調べようとしている。
	1 (書く1)	漢字の広場 ① 5年生で学んだ漢字 ①	△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。((知識及び技能)(1)エ) ◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。((思考力、判断力、表現力等)Bイ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書くとしている。
1	5 (書く2)	二 筆者の考えを読み、説明の仕方の特徴をとらえよう	□雪エネルギ―の利用に対する筆者の主張と取り上げた事例の関係、残された課題などを検討しながら読み、筆者の説明の仕方や雪エネルギ―の利用について考えをまとめる。	
	5(書く2)	雪は新しいエネルギー	△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ	◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。((知識及び技能)(2)イ) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。((思考力、判断力、表現力等)Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。((思考力、判断力、表現力等)Cア) ◎【思判表】「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。((思考力、判断力、表現力等)Cウ) 【態度】積極的に雪エネルギ―の利用に対する筆者の主張と取り上げた事例の関係、残された課題などを検討し、今までの学習を生かして、筆者の説明の仕方や雪エネルギ―の利用について考えをまとめようとしている。
1	2	主語と述語の対応をみる	△主語と述語の対応を確認して、文のねじれに気づき、正しく直す。 △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒◎知技(1)カ	◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。((知識及び技能)(1)カ) 【態度】積極的に主語と述語の対応について理解し、今までの学習を生かして、文のねじれに気づき、正しく直すとしている。
1	10 (話す聞く6、書く4)	三 立場を決めて、主張を明確にしよう	◇■立場や意見をはっきりさせて話し合ったり、パンフレットを作成して伝えたりする。	
1	6 (話す聞く6)	地域の防災について話し合おう	◇意見の違いを大事にしながら話し合い、考えを深める。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ △日常生活で使われる敬語を理解し使い慣れること。⇒知技(1)キ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。⇒思判表A(1)ア ◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。⇒思判表A(1)イ ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。⇒思判表A(1)ウ ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。⇒思判表A(1)エ ◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。⇒◎思判表A(1)オ	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。((知識及び技能)(1)オ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。((思考力、判断力、表現力等)Aオ) 【態度】粘り強く意見の違いを大事にしながら話し合い学習の見通しをもって考えを深めようとしている。

1	4 (書く4)	パンフレットを知らせよう	■相手や目的に応じて内容や構成を考え、パンフレットを作る。 △話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。⇒知技(1)イ △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒知技(1)カ △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ	◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。((知識及び技能)(2)イ) ◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。((思考力、判断力、表現力等)B)イ ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。((思考力、判断力、表現力等)B)ウ ◎【思判表】「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。((思考力、判断力、表現力等)B)エ ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。((思考力、判断力、表現力等)B)オ 【態度】積極的に相手や目的に応じて内容や構成を考え、学習課題に沿ってパンフレットを作ろうとしている。
1	1 (書く1)	雨	△「雨」を扱った言語表現を集める。 △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)イ	◎【知技】語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。((知識及び技能)(3)ウ) 【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。((思考力、判断力、表現力等)B)ア 【態度】粘り強く「雨」を扱った言語表現を集め、学習の見通しをもって「言葉ノート」を作ろうとしている。
1	2	世代による言葉のちがひ	△世代による言葉の違いの通いについて理解し、相手や場面に応じて適切な言葉を選んで使うことができるようになる。 △言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ ◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。⇒思判表A(1)オ ◇インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。⇒思判表A(2)イ	◎【知技】語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。((知識及び技能)(3)ウ) 【思判表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。((思考力、判断力、表現力等)A)オ 【態度】積極的に世代による言葉の違いの通いについて理解し、学習課題に沿って相手や場面に応じて適切な言葉を選んで使おうとしている。
1	1	漢字の広場 ② 複数の意味をもつ漢字	△複数の意味をもつ漢字が構成する熟語の意味に関心をもつ。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の当該学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ	◎【知技】語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。((知識及び技能)(3)ウ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって複数の意味をもつ漢字が構成する熟語の意味を考えようとしている。
	1 (書く1)	漢字の広場 ② 5年生で学んだ漢字 ②	△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を書く、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。((知識及び技能)(1)エ) ◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。((思考力、判断力、表現力等)B)イ 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。
1	7 (話す聞く2)	四 すぐれた表現の効果を考えて、登場人物の心情を読もう	口優れた表現を味わいながら、人物の心情を読み、優れた表現についての感想を話し合う。	
1		川とノリオ	△比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。⇒◎知技(1)ク △文章を音読したり黙読したりすること。⇒◎知技(1)ケ △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒知技(1)カ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。⇒思判表A(1)ア ◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。⇒思判表A(1)オ ◇登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。⇒◎思判表C(1)イ ◇人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。⇒◎思判表C(1)エ ◇文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。⇒思判表C(1)◎オ ◇文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。⇒思判表C(1)◎カ ◇意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。⇒思判表A(2)ア ◇詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ ☆道徳・物語の読みをとおして、生命がかがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重しようとする。	◎【知技】比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。((知識及び技能)(1)ク) ◎【知技】文章を音読している。((知識及び技能)(1)ケ) 【思判表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。((思考力、判断力、表現力等)A)オ ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。((思考力、判断力、表現力等)C)イ ◎【思判表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。((思考力、判断力、表現力等)C)エ ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。((思考力、判断力、表現力等)C)オ ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。((思考力、判断力、表現力等)C)カ 【態度】進んで優れた表現を味わいながら、人物の心情を読み優れた表現を味わいながら、人物の心情を読み、学習の見通しをもって優れた表現についての感想を話し合おうとしている。
2	2 (話す聞く2)	教えて！あなたの「とっておき」	◇話し手の意図を考慮しながら聞き、自分の意見と比べて考えをまとめる。 △言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ	◎【知技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。((知識及び技能)(1)ア) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞くようとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。((思考力、判断力、表現力等)A)エ 【態度】積極的に話し手の意図を考慮し、今までの学習を生かして自分の意見と比べて考えをまとめている。

2	1	詩を味わおう イナゴ	言葉の広がりを楽しむながら、詩の世界を楽しむ。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)イ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。⇒◎思判表C(1)イ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。⇒思判表C(1)イ □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((知識及び技能)(1)イ) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。((思考力、判断力、表現力等)Cイ) 【態度】積極的に言葉の広がりを楽しむ、学習課題に沿って詩の世界を楽しもうとしている。
2	1 (書く1)	「知恵の言葉」を集めよう	△生活の中で使われている知恵の言葉に気がつき、言葉の使い方への理解を深める。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)イ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。((知識及び技能)(1)イ) ◎【知技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。((知識及び技能)(2)ア) 【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。((思考力、判断力、表現力等)Bア) 【態度】進んで語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見通しをもって自分の「知恵の言葉」をつくらうとしている。
2	5 (書く5)	五 てんかいを考えて、表現を工夫して書こう	■写真から想像を広げ、展開を考えて物語を作る。	
		物語を作ろう	△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)イ △文の中の語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒◎知技(1)カ △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。⇒知技(1)ク ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。⇒◎思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ ■短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)イ	◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。((知識及び技能)(1)カ) ◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。((思考力、判断力、表現力等)Bイ) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。((思考力、判断力、表現力等)Bウ) ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。((思考力、判断力、表現力等)Bオ) 【態度】積極的に物語のつくりの特徴について理解し、学習課題に沿って写真から想像を広げ、展開を考えて物語を作ろうとしている。
2	3 (話す聞く1)	会話を広げる	△相手とのつながりをつくる言葉の動きを意識し、相手との言葉の掛け合いの工夫を考える。 △言葉には、相手とのつながりをつくる動きがあることに気付くこと。⇒◎知技(1)ア △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。⇒◎思判表A(1)エ ◇互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。⇒◎思判表A(1)オ ◇それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。⇒思判表A(1)カ	◎【知技】言葉には、相手とのつながりをつくる動きがあることに気付いている。((知識及び技能)(1)ア) ◎【思判表】「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。((思考力、判断力、表現力等)Bエ) ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。((思考力、判断力、表現力等)Bオ) 【態度】積極的に相手とのつながりをつくる言葉の動きを意識し、学習課題に沿って相手との言葉の掛け合いの工夫を考えようとしている。
2	1	漢字の広場 ③ 熟語の使い分け	△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((知識及び技能)(1)オ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって意味のよく似た熟語の使い方の違いを理解し、使い分けようとしている。
	1 (書く1)	漢字の広場 ③ 五年生で学んだ漢字 ③	△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。⇒◎思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。((知識及び技能)(1)エ) ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。((思考力、判断力、表現力等)Bオ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書くようとしている。
2	12 (話す聞く3、書く2)	ー「心の世界」について考え、自分の考えを伝え合おう		
2	1	あなたはどうか感じる？	□友達と自分の感じ方の違いについて考える。 △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。⇒◎思判表C(1)オ	◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解している。((知識及び技能)(2)イ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。((思考力、判断力、表現力等)Cオ) 【態度】進んで文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、学習課題に沿って友達と自分の感じ方の違いについて考えようとしている。

2	7 (書く1)	ぼくの世界、君の世界	□筆者の考えに気をつけながら、文章の要旨を捉え、「心の世界」について考える。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △文の中の語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒知技(1)カ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ	◎【知技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。((知識及び技能)(2)ア) 【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。((思考力、判断力、表現力等)B7ウ) ◎【思判表】「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。((思考力、判断力、表現力等)C7ウ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。((思考力、判断力、表現力等)Cオ) 【態度】進んで筆者の考えに気をつけながら、文章の要旨を捉え、自分の経験をふりかえりながら「心の世界」について考えようとしている。
2	4 (話す聞く・書く1)	「うれしさ」って何？——哲学対話をしよう	◇お互いの考えや意見を関連づけて述べ合い、共通点や相違点をもとに分類する。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。⇒思判表A(1)ア ◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。⇒思判表A(1)イ ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。⇒思判表A(1)ウ ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。⇒◎思判表A(1)エ ◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。⇒◎思判表A(1)オ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ◇それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。⇒思判表A(2)ウ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(2)ウ	◎【知技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。((知識及び技能)(2)ア) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。((思考力、判断力、表現力等)Aエ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。((思考力、判断力、表現力等)Aオ) 【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。((思考力、判断力、表現力等)B7ウ) 【態度】積極的にお互いの考えや意見を関連づけて述べ合い、今までの学習を生かして共通点や相違点をもとに分類しようとしている。
2	5 (書く2)	言葉は時代とともに	△言葉がその時代の人々とともに変化してきたことを知り、自分の考えをまとめる。 △古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。⇒◎知技(3)イ △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。⇒知技(3)ウ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ☆総合的な学習の時間・道徳：時代とともに変化していく言葉について興味をもって調べたり、わが国の伝統や文化への関心を高めたりする。	◎【知技】古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。((知識及び技能)(3)イ) 【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。((思考力、判断力、表現力等)Bカ) 【態度】積極的に言葉がその時代の人々とともに変化してきたことを理解し、学習課題に沿って自分の考えをまとめようとしている。
2	6 (書く6)	二 説得力のある文章を書こう	■理由や根拠を示して、説得力のある意見文を書く。	
2		自分の考えを発信しよう	△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。⇒知技(1)イ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ △文の中の語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒知技(1)カ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■防衛の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。⇒◎思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒◎思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ☆総合的な学習の時間など：文章を書く活動でも活用できる。	◎【知技】文の中の語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。((知識及び技能)(1)カ) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。((思考力、判断力、表現力等)B7ウ) ◎【思判表】「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。((思考力、判断力、表現力等)Bエ) ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。((思考力、判断力、表現力等)Bオ) ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。((思考力、判断力、表現力等)Bカ) 【態度】積極的に情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、学習課題に沿って理由や根拠を示して、説得力のある意見文を書くこととしている。
2	1	漢字の広場 ④ 音を表す部分	△形声文字について、音と意味、成り立ちも含めて理解する。 △第6学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。⇒知技(3)ウ	◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。((知識及び技能)(3)ウ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって形声文字について、音と意味、成り立ちも含めて理解しようとしている。

	1 (書く1)	漢字の広場 ④ 5年生で学んだ漢字 ④	△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読み、また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ ■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。⇒思判表B(2)ウ	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。((知識及び技能)(1)エ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書くとしている。
2	8 (書く2)	三 う 登場人物の変化を読み、自分の考えをまとめよう	□登場人物の心情の変化を考えながら読み、想像したことを書く。	
2		きつねの窓	△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。⇒思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。⇒思判表C(1)カ ■短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)イ □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして、生命がかげがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重することについての考えを深める。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。((知識及び技能)(1)オ) 【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。((思考力、判断力、表現力等)Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。((思考力、判断力、表現力等)Cエ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。((思考力、判断力、表現力等)Cオ) 【態度】進んで登場人物の心情の変化を考え、学習の見通しをもって想像したことを書くとしている。
2	8 (話す聞く・書く2)	書評を書いて話し合おう	△これまでに読んだ本の中から好きな本について書評を書き、紹介し合う。 △話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。⇒◎知技(1)イ △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ △文の中の語句の振り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒知技(1)カ △日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くこと。⇒◎知技(3)オ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。⇒思判表A(1)ア ◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。⇒◎思判表A(1)イ ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。⇒◎思判表A(1)ウ ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。⇒思判表A(1)エ	◎【知技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付いている。((知識及び技能)(3)オ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。((思考力、判断力、表現力等)Aイ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。((思考力、判断力、表現力等)Aウ) 【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。((思考力、判断力、表現力等)Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。((思考力、判断力、表現力等)Cオ) 【態度】進んで書き表し方に着目して文を整え、これまでに読んだ本の中から好きな本について書評を書き、紹介し合おうとしている。
2	2	敬意を表す言い方	△話す相手や場面に応じて、敬意を表す言い方を適切に使い分ける。 △日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。⇒◎知技(1)キ	◎【知技】日常よく使われる敬語を理解し、使い慣れている。((知識及び技能)(1)キ) 【態度】積極的に語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習課題に沿って敬意を表す言い方を適切に使い分けようとしている。
3	2 (話す聞く・書く1)	言葉と私たち	言葉に対する自分の考えを書き、言葉への関心を持つ。 △話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。⇒知技(1)イ △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。⇒思判表A(1)ア ◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。⇒思判表A(1)イ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。⇒◎思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。⇒思判表C(1)オ □説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。⇒思判表C(2)ア □学校図書館などを利用して、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。⇒思判表C(2)ウ	◎【知技】話し言葉と書き言葉との違いに気付いている。((知識及び技能)(1)イ) 【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。((思考力、判断力、表現力等)Aイ) 【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。((思考力、判断力、表現力等)Bア) ◎【思判表】「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。((思考力、判断力、表現力等)Cウ) 【態度】粘り強く論の進め方について考え、学習の見通しをもって言葉に対する自分の考えを書くとしている。
3	1	漢字の広場 ⑤ 同じ訓をもつ漢字	△異字同訓について理解を深め、関心をもつとともに正しく使い分ける。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読み、また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。⇒知技(3)ウ	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。((知識及び技能)(1)オ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって異字同訓について理解を深め、関心をもつとともに正しく使い分けようとしている。

	1 (書く1)	漢字の広場 ⑤ 五年生で学んだ漢字⑤	△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表(1)ウ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見や伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表(1)カ	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。((知識及び技能)(1)エ) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。((思考力、判断力、表現力等)8ウ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書くようにしている。
3	11 (書く3)	四、伝記を読んで、人物の生き方について自分の考えをまとめよう	□伊能忠敬の生き方を考えたあと、興味のある人物の伝記を読んで、その人物を紹介する。	
3		伊能忠敬	△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ △文の中で語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒知技(1)カ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ	【知技】文の中で語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。((知識及び技能)(1)カ) 【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。((思考力、判断力、表現力等)8ウ) ◎【思判表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。((思考力、判断力、表現力等)Cエ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめている。((思考力、判断力、表現力等)Cオ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。((思考力、判断力、表現力等)Cカ) 【態度】積極的に原因と結果など情報と情報との関係について理解し、学習課題に沿って伊能忠敬の生き方を考えたあと、興味のある人物の伝記を読んで、その人物を紹介しようとしている。
3	2	日本語の文字	△日本語の文字の由来や特徴に関心をもち、適切に使い分けができる。 △語句の由来などに関心をもちとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。⇒◎知技(3)ウ △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いにも注意して書くこと。⇒知技(1)ウ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。⇒思判表A(1)ア ◇意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。⇒思判表A(2)ア	◎【知技】語句の由来などに関心をもちとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。((知識及び技能)(3)ウ) 【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。((思考力、判断力、表現力等)Aア) 【態度】積極的に日本語の文字の由来や特徴を理解し、今までの学習を生かして適切に使い分けようとしている。
3	1	漢字の広場 ⑥ さまざまな読み方	△同形異語や熟字訓、同字異訓についての理解を深め、言葉の使い方に関心をもち、 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ △語句の由来などに関心をもちとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。⇒知技(3)ウ	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((知識及び技能)(1)ウ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって同形異語や熟字訓、同字異訓についての理解を深め、言葉の使い方に関心をもちようとしている。
3	8 (話す・聞く・書く4)	五、出会った言葉を振り返ろう	◇■□卒業を前に六年間の言葉の学びを振り返り成長を自覚するとともに、中学校での新しい言葉との出合いの希望を持つ。	
3		ひろがる言葉	△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。⇒◎知技(1)イ △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ △文の中で語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒知技(1)カ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。⇒◎思判表A(1)ア ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。⇒思判表A(1)ウ ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。⇒思判表A(1)エ ◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。⇒◎思判表A(1)オ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。⇒思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見や伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒◎思判表B(1)カ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。⇒思判表A(2)ア ■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。⇒思判表B(2)ウ	◎【知技】話し言葉と書き言葉との違いに気付いている。((知識及び技能)(1)イ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。((思考力、判断力、表現力等)Aア) ◇「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。((思考力、判断力、表現力等)Aオ) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。((思考力、判断力、表現力等)8ウ) ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見や伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。((思考力、判断力、表現力等)8カ) 【態度】積極的に卒業を前に六年間の言葉の学びを振り返り、成長を自覚するとともに、中学校での新しい言葉との出合いの希望を持つようとしている。